2017 FEB Vol.12

未来への心をつなぐパートナー
～農をはぐくみ 地域をつなぐ～

みらいろ

2

JAふくしま未来
広報誌 2月号

JAふくしま未来

JAグループ
耕そう、大地と地域のみらい。

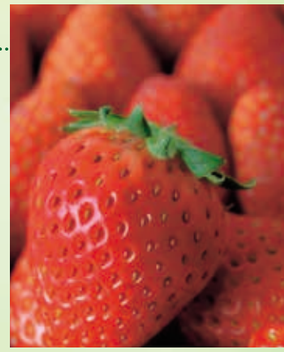
—日本の伝統行事—

ひな祭り

「ひな祭り」は元々、季節の節目や変わり目に災難や厄から身を守り、より良い幕開けを願うための節句が始まりとされています。ひな人形も、昔は飾るのではなく川に流していました。江戸時代になると、人形作りの技術が向上したため、家に飾るようになりました。今では、ひな人形を飾り、ちらし寿司やハマグリのお吸い物を食べて女の子の健やかな成長を願うのが定番の形となっています。

JAふくしま未来 広報誌 みらいろ 2 もくじ

日本の『伝統行事』と『行事食』……2
特集1 販売単価2%アップと生産コスト5%ダウンで農業所得10%アップ
「みらいろ!テン」運動 実施中!……4
特集2 交流サイトを中心とした新しい女子会の形
みらいろ女子会設立……6
特集3 JA事業の理解・浸透と自己改革の実践に活かす
役員による地域の担い手訪問活動始まる……8
みらいろトピックス……10
福島地区情報……12
伊達地区情報……15
安達地区情報……18
そうま地区情報……21
気の向くままに散歩道
おでかけ みらいろーど……24
今月の営農情報……26
よくわかるJA講座……29
農業者紹介 ～土と光と水と～ 農業人（のうぎょうびと）……30
輝きを未来へ 福島明成高校……32
元気にすくすく みらいっ子……33
みらいろ作品展……34
JA活用術……36
インフォメーション……39
旬のもの ～いちごの力～……40



今月の「みらいろ」はいちごの赤です!

行事食

ひな祭りを祝う料理

ひし形の菱餅風のちらし寿司に、手に入りやすいアサリを使って潮汁を添えました。

ひな祭りのちらし寿司

準 備

・型を作る。洗って乾かした牛乳パックの胴の部分を4等分にする。
・かまぼこは5mm程度の幅で飾り切りしたり、型で抜いておく。
・えびは殻を剥いて背わたを取り、塩ゆでしておく。

材料（4人分）

ご飯……2合
えび……4尾
かまぼこ……適量
青のり……大さじ1
いりごま……大さじ1
紅鮭フレーク‥大さじ2
菜の花……4本
スナップエンドウ‥4個
いくらしょうゆ漬け‥適量

＜寿司酢＞【A】
酢……40g
・砂糖……30g
・塩……8g
＜錦糸卵＞【B】
・卵……2個
・砂糖……小さじ1
・塩……ふたつまみ
・水……小さじ1

作り方

①酢飯の水加減でごはんを2合炊きます。
②寿司酢を作ります
【A】をふたつきの瓶などに合わせてよく振り溶かしておきます。
③錦糸卵を作ります
【B】を泡立てないように混ぜ合わせ、フライパンで弱火で2～3回に分けて薄焼き卵を作り、細切りにします。
④3色酢飯を作ります
炊きたてのご飯2合に、②の寿司酢をすべて加えてしゃもじで切り混ぜる。ボウルに3等分にして青のり、いりごま、鮭フレークの3種類の酢飯を作ります。
⑤ひし形に型を取ります
ラップを敷いた上に、用意した4個の型を乗せ、青のり酢飯、いりごま酢飯、鮭酢飯、錦糸卵の順に層敷き詰めて、型をはずします。（濡らしたナイフなどでヘリを1周すると取れやすくなります。）
⑥盛り付けます
⑤に、さっと塩ゆでした菜の花とスナップエンドウ、えび、かまぼこ、いくらを飾ります。

アサリの潮汁

材料（4人分）

アサリ……12個
飾り用麩……適量
菜の花……4本
出汁……4カップ
塩……少々

作り方

①鍋に出汁とアサリを入れて火にかけ吹きこぼれないように加熱します。
②アサリに火が通ったら、塩で味を整えて、飾りの麩を入れてひと煮します。
③お椀に②をよそい、塩ゆでした菜の花を飾ります。

販売単価2%アップと生産コスト5%ダウンで農業所得10%アップ

「みらいろ！テン」運動 実施中!

当ＪＡでは、生産者の所得増大・農業生産の拡大・活力ある地域づくりの実現に向けて、「みらいろ！テン」運動に取り組んでいます。「みらいろ！テン」運動とは、農産物の販売単価を2%高くする取り組みと、生産コストをこれまでより5%下げる取り組みを行うことで、生産者の所得の10%増加を目指そうとするものです。

「みらいろ！テン」運動

農業取得10%UP

販売単価2%UP	×	農業生産拡大	−	生産コスト5%DOWN	＋	支援事業
•販売戦略強化 •地産地消の充実 •6次化商品の開発 •イベント･PR等		•各助成（農業振興支援事業） •集落営農や法人との連携強化 •新規就農支援（策）		•出荷資材統一 •肥料･農薬の価格改定 •オリジナル肥料開発		•個別支援体制整備 •部会連絡協議会農業所得アップ懇談会開催 •農業所得アッププラン作成

担い手支援

担い手渉外出発式

担い手支援のための取り組みは2つ。

1つ目は「個別支援体制の整備」です。各地区に営農指導員１０４人、担い手渉外担当（TAC）17人（営農指導員との兼務は6人）を配置しました。営農指導員は主業農家や中核農家、認定農業者などを中心に1ヶ月１００戸の巡回目標を設定し、巡回強化に努めました。担い手渉外担当は１００戸の巡回目標を設定し、「T（とことん）・A（あって）・C（コミュニケーション）」を行い、ＪA事業に反映させるための意見・要望を吸い上げました。

2つ目は「農業所得アッププラン」の作成です。きゅうりやももなど主要品目19品目において本店連絡協議会を作り、それぞれで農業所得アップ懇談会を開催し、反収・秀品率などの目標数値や重点取組事項を設定しました。それらをもとに営農指導員や担い手渉外担当が品目別の所得アッププランを作成しています。

農業生産拡大

農業生産拡大に向けて取り組んだのは3つ。

1つ目は「農業振興支援事業」の実施です。旧ＪＡごとの取り組みを引き継ぎ、農業資材や苗の購入、病害虫防除対策への助成を、全地区で65事業、89種目に対して行いました（詳しくは先月の「みらいろ」をご覧ください）。

2つ目は「集落営農や法人との連携強化」です。集落営農や法人に対する巡回訪問を積極的に行い、農業資材や肥料購入の斡旋、取引拡大や情報共有を行い利用拡大に努めました。

3つ目は「新規就農支援」です。各地区本部に新規就農担当者を設置したほか、12月には農業経営講演会と新規就農相談会を併せた催しも行いました。

そうま地区では「黄色いハート」生産拡大に向け苗を無料配布した（定植指導会の様子）

生産コスト削減

生産コスト削減のために取り組んだのは3つ。

1つ目は「出荷資材の統一」です。きゅうり・もも・なし・りんご・あんぽ柿の5品目でデザインを統一したダンボール箱を作りました。このおかげで、供給単価は1枚当たり1～5円の値下げにつながっています。

2つ目は「肥料・農薬の価格改定」です。予約価格の地域最安値を目指し、肥料21品目・農薬23品目で平均5%の値下げを実現しました（肥料は7月と12月、農薬価格は平成29年度分より）。

3つ目は「オリジナル肥料開発」です。果樹専用肥料6種類、そさい専用肥料2種類の計8種類を「みらいろ物語」シリーズとして開発しました。昨年末までに約4万8千袋を供給しています。

オリジナル肥料
「みらいろ物語」シリーズ

統一ダンボール

販売単価アップ

販売単価を上げるために取り組んでいることは大きく2つ。

1つ目は「販売戦略強化」です。当ＪＡでは委託販売による価格の不安定さを解消するための販売戦略として、量販店や学校給食、レストランなどへの販路を拡大しました。また、ダイレクトメールやゆうパックなどを活用した贈答品の販売も行っています。

2つ目は「販売促進活動」です。各地区の直売所では統一イベントとして「ももまつり」や「あんぽ柿まつり」を行い、地産地消促進のために「直売所レシートラリー」も行いました。他にも、全国各地でのトップセールスや各地区の農産物販売チーム（スマイル・プレゼンレディ、ベジフルコーディネーター、ＡＡＡ、チームＭＩＲＡＩそうま）による市場や量販店でのＰＲ活動を行っています。

SPLやベジフルコーディネーターが市場で桃をPR

12月に行った統一イベント
「あんぽ柿まつり」

このような取り組みは、問題点を改善しながら平成29年度も継続して実施して参ります。組合員の皆様、ご理解とご協力よろしくお願い致します。

交流サイトを中心とした新しい女子会の形

みらいろ女子会設立

ＪＡふくしま未来は今年、地域農業の振興を目的に、新たな事業を始めます。女性農業者や農業や食に興味のある一般消費者、地元企業が気軽に交流を深められる場として、JAは会員制交流サイトを今月末に開設します。サイトを通じた情報交換が発展することで、イベント企画・６次化商品開発などに関わる新規プロジェクトの立ち上げが期待できます。これらの活動を総称して「みらいろ女子会」と名付けました。みらいろ女子会の最大の目的は、会員の活発な活動を交流サイトの一般ページで紹介し、農業の魅力や地元農産物の安全・安心を幅広い方に発信していくことです。

会員になるには？

みらいろ女子会の会員は交流サイトの会員を意味します。

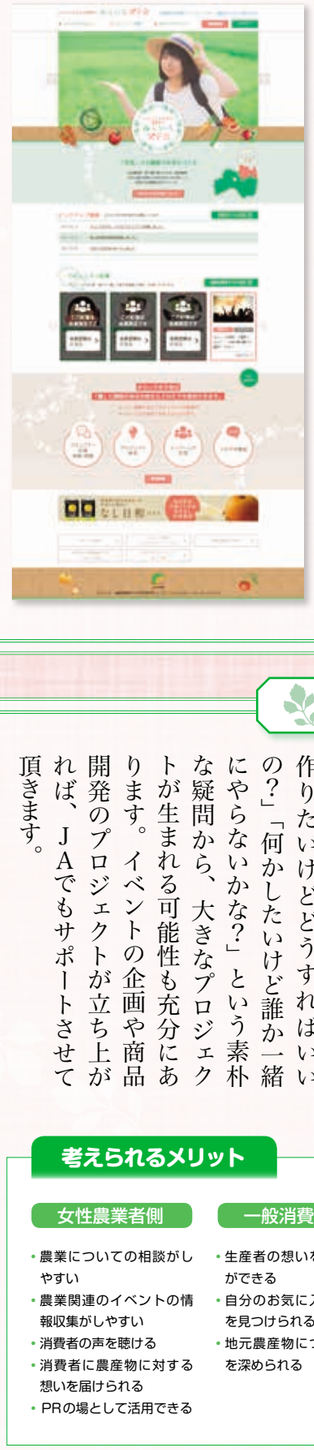
会員登録フォームに必要事項を入力して送信するだけです。後ほど、メールでID（メールアドレス）とパスワードが届くので、それをログインページで入力すればマイページに入ることが出来ます（IDとパスワードはログイン後にマイページから変更することができます）。

下記のQRコードを携帯で読み込むと会員登録フォームへ行くことができます。

みらいろ女子会

会員制交流サイトについて

マイページ▶
▼一般ページ



みらいろ女子会の会員制交流サイトは、**一般ページ**と会員専用の**マイページ**の２つのページがあります。交流サイトは主に、女子会の概要を紹介する「みらいろ女子会について」のコーナー、事務連絡をお知らせする「ピックアップ情報」のコーナー、会員の投稿記事がまとまった「コミュニティ広場」のコーナー、コミュニティ広場から発展して出来た新規プロジェクトを紹介する「進行中プロジェクト」のコーナーの４つのコーナーから出来ています。

会員登録すると自分だけの「マイページ」を持つことが出来ます。マイページでは「コミュニティ広場」への投稿、「プロフィール」編集、「つぶやき機能」でちょっとした一言を発信することが可能です。会員は他の会員のすべての投稿を見ることが出来、記事に対しての書き込みも可能です。さらに、マイページでは投稿記事に投稿者のアイコンが表示されるようになります。アイコンをクリックすることで、投稿者のプロフィールを閲覧することができ、コミュニティを広げるのに役立てることが出来ます。

会員のメリット

みらいろ女子会の会員になるメリットは、**共通の興味・関心を持つ仲間と気軽にコミュニケーションをとれるようになること**です。女性農業者や農業や食に興味のある一般消費者、地元企業を対象に立ち上げる交流サイトという明確な枠が決まっているため、話題をシェアでき、悩みも打ち明けられやすい環境が出来ています。また、生産者と消費者が交流できるという点でも、女性農業者は一般消費者の要望を知ることができ、一般消費者の皆さんは女性農業者の農産物に対する想いやこだわりを直接感じることができます。

さらに、同じ志を持つ仲間同士の交流は、新たなアイデアが生まれる場でもあります。「何か作りたいけどどうすればいいの？」「何かしたいけど誰か一緒にやらないかな？」という素朴な疑問から、大きなプロジェクトが生まれる可能性も充分にあります。イベントの企画や商品開発のプロジェクトが立ち上がれば、ＪＡでもサポートさせて頂きます。

そして、女子会の会員を対象とした交流会やイベントも企画しています。地域ＪＡの女子会ですから、開催場所は基本的に皆さんの地元を想定しています。

仲間を集めてプロジェクトを実践したい方、会員同士で情報を共有したい方、投稿記事を閲覧したい方、地域農業の知識を深めたい方など、少しでも興味を持ったら是非、「みらいろ女子会」へ!!

考えられるメリット

女性農業者側
- 農業についての相談がしやすい
- 農業関連のイベントの情報収集がしやすい
- 消費者の声を聴ける
- 消費者に農産物に対する想いを届けられる
- PRの場として活用できる

一般消費者側
- 生産者の想いを知ることができる
- 自分のお気に入りの農家を見つけられる
- 地元農産物について知識を深められる

企業側
- 新商品開発につながるヒントが得られる
- コラボ商品で付加価値を付けられる
- 消費者のニーズを知ることができる
- 企業アピールにつながる

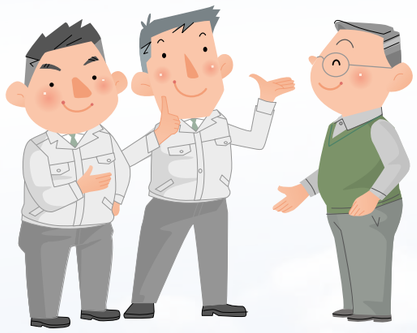
特集3

JA事業の理解・浸透と自己改革の実践に活かす
役員による地域の担い手訪問活動始まる

当JAは今年から、改正農協法に対するJAの取り組みの理解・浸透と、自己改革の実践に活かすための意見集約を目的とした、代表理事らによる農家への意見交換訪問活動を始めました。今後、年間約300戸を目標に認定農業者や生産法人など地域農業の担い手の皆さんを訪問する予定です。

方法

- **JA役職員で4つの班を作り農家を訪問（1班3～5人構成）**
  内訳：代表理事1人、常務理事1人、職員1～3人
- **意見交換訪問活動日は1地区当たり月1回**
- **訪問活動日には1班5～6軒を訪問**
  ※支店で意見交換する場合もあります
- **意見交換は1件当たり50分程度**



意見交換内容は、専用の訪問記録簿に記録しJA内で保管・共有します。また、担い手渉外担当者（TAC）などが後日フォロー巡回も行います。毎月、その月の意見交換訪問を振り返る検討会も行い、次回の訪問に活かします。

内容

訪問活動で説明や意見交換を行う内容は以下の通りです。

- **改正農協法の概要、農政改革など**
- **当JAの取り組み状況**
  …右の2つについては、「農協改革の情勢とJAふくしま未来創造的自己改革」と題した資料を渡し、説明させて頂きます。
- **JAへの意見・要望**
  …前段の説明を踏まえての意見や合併後のJAについてなど、忌憚ない意見をお願い致します。

1月は18日に伊達地区、19日に安達地区、23日に福島地区とそうま地区で合計22人の代表者の方々と意見交換をしました。福島地区の野田支店では菅野孝志組合長と鈴木一三常務など役職員4人と福島市認定農業者会の阿部哲也会長が、約1時間意見を交わしました。担当からの情勢説明後、意見・要望の場面で阿部会長は「農協法等を一部改正する法律が閣議決定され、農協は利益を上げこの利益を事業成長に投資するなどとあるが、営利を追求することは組合員サービスの低下に繋がるほか、これまでにJAが果たしてきた地域コミュニティーの役割が損なわれてしまうなどの懸念がある。JAは地域農業にとって欠かすことのできない組織である」などと話されました。菅野組合長らは熱心にメモを取りながら耳を傾けました。

2月は福島地区と伊達地区が8日、安達地区とそうま地区では13日に訪問活動を行いました。

伊達地区の意見交換。安彦慶一専務（左から2番目）、石幡洋治常務（左）などが伊達市認定農業者会の菅野良裕会長宅を含む6軒を訪問しました。

福島地区の意見交換。詳細は文中の通り。当日は阿部会長（右）を含む6人と意見交換を行いました。

そうま地区の意見交換。今村秀身専務（右）、半谷善弘常務（右から2番目）などが石神牛有限会社事務所で原町区認定農業者会の小倉敏孝副会長と意見を交わすなど、5軒を訪問しました。

安達地区の意見交換。伊藤昌廣専務（中）、遠藤明男常務（右）などが大玉村認定農業者会の遠藤勝栄会長宅を含む5軒を訪問しました。

首相官邸・安倍総理を訪問

福島復興の象徴「あんぽ柿」届ける

▲安倍総理にあんぽ柿（個包装詰め）を届けました

福島県とＪＡ福島五連、伊達地域農業振興協議会、当ＪＡなどは１月10日、首相官邸を訪れ、安倍晋三首相に特産品のあんぽ柿を届けました。東日本大震災からの復興と東京電力福島第一原子力発電所事故の「風評被害」払拭に向け、品質や安全性をＰＲしさらなる協力を求めました。

内堀雅雄知事や福島五連の大橋信夫会長、当ＪＡの菅野孝志組合長、安彦慶一専務、宍戸里司あんぽ柿生産部会長らが官邸を訪問し、安倍首相に今年再開した個包装詰めのあんぽ柿を手渡しました。

▲あんぽ柿を試食する安倍総理

あんぽ柿を試食した首相は「ジューシーで甘くておいしい」と答え、その後もう一つ試食しました。

県産あんぽ柿は震災後、モデル地区で出荷を再開して４年目。平成28年度の出荷量は震災前の約８割を計画しています。首相訪問を終えた菅野組合長は「安倍首相に美味しく食べていただき安心した。今年度稼働した加工選別包装施設のあんぽ工房みらいを活用し、個包装詰め再開と合わせて、ブランドを一層高めていく」と話しました。

待ちに待ったオープン！

ファミリーマートＡコープ湯野店

▲テープカットで開店を祝う出席者

当ＪＡと㈱ファミリーマートは１月27日、県内第１号店となる「ファミリーマートＡコープ」を福島市飯坂町湯野にオープンしました。同店舗では、通常のコンビニ商品とサービスに加え、Ａコープが展開する生鮮食品や惣菜、日用品など豊富な品数を揃え、14席ある充分な広さのイートインスペースも設置。スーパーマーケットと地域コミュニティの場としての機能が期待されています。

新店舗の敷地には以前、子会社の㈱ジェイエイ新ふくしまライフが営業するＡコープ湯野店がありましたが、施設の老朽化などが原因で、昨年８月に閉店となりました。今回は利便性をより追求するため、ファミリーマートと提携することになりました。

オープニングセレモニーにはＪＡ関係者やファミリーマート関係者など約80人が出席。菅野孝志組合長は「この拠点を地域のより豊かなくらしの提供のために活かしていきたい」と話し、ファミリーマートの福田稔統括部長は「利便性を提供する象徴となるような店舗を作ることが出来た」と喜びを述べました。

買い物を終えた方は「Ａコープが閉店してから、買い物は隣町に行っていた。今回の開店を本当に心待ちにしていた」「湯野地域にはコンビニが無かったから嬉しい」などと笑顔で話していました。

▲オープン初日のレジ前の行列

全国大会で活動の成果を発表

北海道・東北地区代表の佐藤京子さん

▲全国大会で発表する佐藤京子さん（伊達地区本部富野支部長）

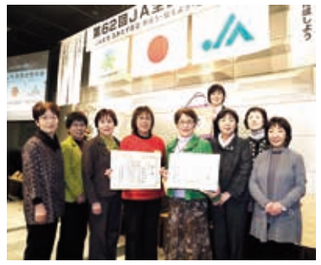
第62回ＪＡ全国女性大会が１月24・25日の２日間、東京都江東区のホテルイースト21東京を会場に開かれ、全国から約６００人が結集しました。大会初日には、全国の代表６人の活動体験発表があり、北海道・東北地区代表として、当ＪＡ女性部伊達地区本部富野支部長の佐藤京子さんが、全国の晴れ舞台で堂々と発表を行いました。

活動体験発表のトップバッターを務めた佐藤さんは、「『であい』で広がるにぎわい」と題し、女性部員の拡大を目指した直売所設立に向けた取り組みやその成果を発表しました。

伊達市が富野地区の八幡神社に公園を造ることを機会に「直売所」開設を思い立った佐藤さんは、平成25年に行動を開始します。支部の親しい仲間に相談し、みんなが賛成してくれたことで前へ進みますが、八幡神社周辺は調整区域でちょっとしたハウスも建てられない環境。計画は一度ここで中断してしまいます。

転機が訪れたのは27年４月。完成した「八幡神社政宗にぎわい広場」で開かれる「福島デスティネーションキャンペーン」への参加協力を依頼する手紙が市役所から届きます。内容は直売所も開設できるという嬉しい知らせでした。会員集めの際には、加入条件を「女性部員であること」とし、支部の部員のみならず、梁川総合支部全体とし、他支部の部員拡大も視野に入れました。キャンペーン開始と同時にテントながらも念願の直売所「であい」をオープン。地場産農産物を中心に、農産加工品、手芸品なども店頭に並べました。役員の発案で、ＪＡの資材センターで処分される使用済みの米袋を用いた「米袋マイバッグ」を手作りで制作。２周年記念として、レジ袋の代わりに買い物客にプレゼントしました。直売所には、遠方からの観光客や地域の方々が立ち寄り、いつしか直売所「であい」は、地域のサロンのような交流の場所になっていて、地域になくてはならない空間になっています。素晴らしい佐藤さんの発表に、会場からはたくさんの拍手が送られました。大会の席上、佐藤さんら発表者には、ＪＡ全国女性組織協議会長から、ＪＡにはＪＡ全中会長から、それぞれ表彰状が贈られました。

大会では、ＪＡ運営の参画強化などを掲げたＪＡ女性組織３カ年計画「ＪＡ女性　ふみだす勇気　学ぼう・伝えよう・地域とともに!!」の初年度取り組み状況を共有しました。


▲佐藤さんを囲む応援に駆け付けた福島女性協のみなさんと担当者

最高価格１６２万円

和子牛初セリ

▲幸先の良いスタートを切った初セリ

ＪＡ全農福島は１月16日、本宮市の県家畜市場で平成29年度和子牛初せりを開きました。県内から３８８頭が出品され、去勢と雌を合わせた平均価格は前年より12万５０７５円高い86万３，７６０円。最高価格は雌の１６２万１，０８０円となりました。

大橋信夫運営委員会長はあいさつで「風評被害払拭に向けて粘り強く取り組みを行っていく」と強調。セリは３日間にわたって行われ、当ＪＡからは和子牛合わせて１６４頭が出品されました。

会場の外では牛鍋が振る舞われ、皆さん冷えた体を温めていました。

混雑緩和と利便性向上へ

飯坂東支店ＡＴＭオープン

▲テープカットでＡＴＭオープンを祝う

飯坂東支店で12月26日、ＡＴＭオープンセレモニーを行い、菅野孝志組合長や石幡洋治常務など代表者７人がテープカットを行いました。

同支店管内にはこれまで、Ａコープ湯野店敷地内にＡＴＭがありましたが、Ａコープが新装開店に向けて閉店したため、支店敷地内に移転設置することになりました。支店には地域の組合員をはじめ、湯野共選場の従業員や季節的に開店する共選場併設の直売所の利用者が多く訪れることから、ＡＴＭがあることで窓口の混雑の緩和や利便性の向上が期待されています。

地域の高齢者へ手作りおせち届ける

川俣飯野 さわやか部会

▲おせちを作ったさわやか部員

女性部福島地区川俣飯野総合支部さわやか部会は12月28日と29日、福島地区介護センター職員と毎年恒例のおせち作りを行いました。煮物や紅白なますなど伝統的なおせち料理に、受け取った高齢者は「今年もありがたく頂きます」と喜んでいました。

甘い香りでリラックス

飯坂温泉でりんご風呂

▲りんご風呂をＰＲする女将さん

飯坂温泉では年末年始の３日間、旅館21軒で「りんご風呂」を提供しました。りんごは当ＪＡに出荷されたもので約８００kgがお風呂に使用されました。宿泊客からは「香りが良い」「疲れが取れる」と好評で、飯坂温泉観光協会の担当者は「お客様が喜んでいる企画なので、これからも続けたい」と話しました。

剪定講習会で傷害果対策学ぶ

福島市園芸農産振興会

福島市やＪＡなどで組織する福島市園芸農産振興会は１月５日、りんご剪定講習会を福島市飯坂町の畑で開き、福島地区と伊達地区の生産者など約１５０人が参加しました。

主力品種「サンふじ」は今年度、前年度を上回る割合で傷害果が発生しました。原因の一つが高温や台風などの自然災害によるサビやスレが増加したことであるため、講習会では、ＪＡの佐藤宏一職員が「自然災害に強いりんご栽培」と「樹勢回復を促すりんご剪定」をテーマに実技を交えて説明しました。

▲真剣なまなざしで実技を見つめる生産者

特産品アサツキの収穫に汗流す

福島市松川町金沢

▲一面に広がるアサツキ畑を背に黙々と収穫をするヒロ子さん

福島市松川町金沢の特産品であるアサツキの収穫が１月上旬から最盛期を迎えました。今年度は天候の影響で畑によって収穫時期にバラつきがあるものの、最長で３月まで収穫は続く見込みです。

同地域でアサツキを30ａ栽培する加藤孝一さんの畑では、昨年12月15日から収穫が始まりました。１日６kgを目安に出荷を続けていて、昨年を２００kg以上上回る５４０kgを出荷する計画です。

収穫作業をしていた奥さんのヒロ子さんは１月６日、「まだまだ畑全体の10分の１も収穫していない。始まったばかりなので、３月末まで収穫を頑張りたい」と話していました。

ＪＡでは今年度、１．８ｔの出荷を見込んでいます。

直売所「しょいか～ご」を見学

直売所運営委員会役員研修

▲店内のスタッフに話を聞く会員㊧

直売所運営委員会は１月12日、役員の視察研修でＪＡ千葉みらいが運営する農産物直売所「しょいか～ご」を訪れ、担当者に話を聞きながら価格や出荷方法、品揃えなどを見学しました。

「しょいか～ご」は約１，０００㎡の売り場面積を持つ千葉県内最大級の農産物直売所で、全国各地のＪＡと連携することで豊富な品揃えを確保し、食育ソムリエを置いて食に関する知識の提供なども行っています。

▲商品名や出荷形態に興味津々

中村要委員長は視察後、「首都圏の住宅街にある直売所の為、当ＪＡ管内の直売所と比較が難しいところもあるが、品物がよく品数も潤沢だという印象を受けた。今後も生産者の意識を高く持っていくことが大切だと思った」と話していました。

農業関係者集い盛大に開催

平成29年福島市農始祭

▲謝辞を述べる吾妻一夫さん㊥と受賞した皆さん

当ＪＡと福島市は１月18日、平成29年福島市農始祭をエルティで開き、農業関係者など約２４０人が集いました。第一部では平成28年度福島市農業賞の表彰式を行い、小林香福島市長が受賞者の吾妻一夫さん・洋子さん夫妻と齋藤勝明さん・美智子さん夫妻に賞状と記念品を授与しました。謝辞では一夫さんが「安心して食べられる美味しいくだもの作りやまた行きたい福島と思ってもらえる取り組みをさらに強化しながら、福島の魅力を広げていく」と今後の抱負を述べ、勝明さんが「農業は山あり谷あり。どんな困難があっても妻や長男夫婦が協力してくれたことで乗り越えてこられた」と感謝を述べました。

第二部の情勢報告の中では、福島大学食農学類の開設やＪＡの６次化商品、ふくしまスイーツコンテストの入賞作品について詳細が説明されました。最後に、今年の豊作を祈願し、菅野孝志組合長をはじめとする代表者10人で餅つきを行いました。

▲恒例の餅つきで杵を高く上げる参加者

金子千代野さん祝う

福島南支店百歳祝い

▲千代野さんを囲んで百歳をお祝い

福島南支店は1月19日、福島市吉倉の金子千代野さんの長寿祝いを行いました。永澤信弘福島地区担当常務が感謝状を、西沢政邦福島南支店長が記念品を贈呈し、千代野さんは「大変だったね。ありがとう」と言って受け取りました。

長年、和裁を続けてきて手先が器用な千代野さんは、グルメでおしゃれ好きでもあります。「中合」でのお買い物が好みで、髪の毛を整えて身なりにも気を使っていました。現在は家族に支えてもらいながら穏やかに過ごしています。

福島地区　今月のイベント情報　皆様のご来場をおまちしています♪

花卉新規栽培者募集説明会の開催

ＪＡの基幹作物の小菊の栽培概要についてご説明いたします。

開催日時・会場

2月20日(月)	午前10時～	北信支店小会議室
	午後２時～	福島南支店小会議室
2月21日(火)	午前10時～	松川営農センター会議室
	午後２時～	川俣資材店会議室
2月23日(木)	午前10時～	吾妻営農センター会議室

最寄の会場へお越し下さい。

野菜栽培指導会の開催

今月の内容　①春野菜（サヤ類・アスパラガス等）の栽培のポイント
②農薬の適正使用について
③その他

講師　各営農センター営農指導員

2月22日(水)	午前10時30分～ 午後2時～	北信支店会議室 川俣飯野営農センター会議室
2月23日(木)	午前10時30分～ 午後2時～	福島南支店会議室 庭塚地区活性化センター会議室
2月24日(金)	午前10時30分～ 午後2時～	松川営農センター会議室 立子山地区活性化センター会議室

最寄りの会場へお越し下さい。

【連絡先：福島地区直販課】
TEL　553－3657

福島地区　毎日の暮らしをサポート・・・JAからのおしらせ

平成29年度ＪＡふくしま未来福島地区　女性農業者支援事業

アグリカレッジ受講生募集!!

◆受講期間　平成29年3月～平成30年2月
◆対象者　女性農業者　※一部男性コースあり、本人が組合員資格を有する方に限ります。
◆年間受講料　女性部＋組合員（正組合員・准組合員）1,000円　組合員（正組合員・准組合員）1,500円
※実習費用、視察研修代金については随時徴収いたします。
◆募集締切　平成29年3月3日(金)
◆申込方法　地域支援課（024－554－5511）までお問合せ下さい。申し込みは一人1コースで、先着順とさせていただきます。
◆募集コース

●野菜コース30名程度
野菜をもっと上手に作りたい方、直売所で収入アップを目指す方のための講座。テーマは「やさいの栽培から販売までを実践してみよう!」

●桃コース30名程度
桃の栽培技術の習得を目指しましょう! 女性だけの指導会なので、気軽に何でも聞くことができますよ♪

●男性アグリコース（男性限定）20名程度
テーマは「食と農、たくさん体験して趣味を広げよう!」。普段はなかなかできないことを体験し、活動の幅を広げるきっかけにしませんか?

●料理コース30名程度
身近にある野菜や果物を利用した料理や加工法を学ぶコース。料理・加工品作りや6次化に興味のある方、一緒に楽しく学びましょう♪

●花道コース30名程度
日本の伝統文化である生け花を学ぶコース。季節や伝統行事にまつわる知識も学べます! プロの指導で、初心者でも安心♪

特産のあんぽ柿売り込む

大田市場で試食ＰＲ

▲あんぽ柿をＰＲする菅野組合長

ＪＡと伊達市、桑折町、国見町などで組織する伊達地域農業振興協議会は1月10日、東京都大田区の東京都中央卸売市場（大田市場）で、特産のあんぽ柿のトップセールスを行いました。

同市場内の東京青果（株）の協力で、マンモス競売台前で開催したトップセールスには、仁志田昇司伊達市長や高橋宣博桑折町長、佐藤弘利国見副町長、菅野孝志組合長、安彦慶一専務、伊藤昌廣専務、萩原嘉昭伊達地区担当常務、宍戸里司あんぽ柿生産部会長らが出席。ミスピーチキャンペーンルーの2人も応援に駆け付け、あんぽ柿の試食を振る舞いＰＲしました。試食した関係者らは「福島のあんぽ柿好きだよ」「やわらかく、とても甘くておいしい」と、2つ3つと試食する姿が見られました。

集まった市場関係者らを前に、仁志田市長は「あんぽ柿を東京の一人でも多くの皆さんに食べてほしい」、菅野組合長は「今年から個包装詰めを再開。若い世代に、食べていただけるように努力していく」、宍戸部会長は「最大ピークの1月の販売に期待している」と、有利販売に向け呼びかけました。

▲試食を勧めるミスピーチ

復興のシンボル あんぽ柿をＰＲ

各省庁などを訪問

伊達地域農業振興協議会は1月10日、特産のあんぽ柿のＰＲなどのため、農林水産省や復興庁、経済産業省、米国大使館、自民党本部などを訪問しました。

農林水産省では、山本有二大臣と奥原正明事務次官と面談し、山本大臣は、あんぽ柿を試食すると「甘くておいしいね」と感想を話し、「ぜひ、輸出へも向けて取り組みたい」と話しました。復興庁では、今村雅弘大臣と長沢広明副大臣と面談。今村大臣は「福島の農水産物の復興には、全力で取り組む体制を整えています。生産農家の皆さんの努力が報われるようにしたい」と話しました。経済産業省では、菅原郁郎事務次官があんぽ柿を試食し、「あんぽ柿は昔から好きで季節になると購入して食べています」と話しました。米国大使館では、ジェイソン・Ｐ・ハイランド首席公使、農務部国際動植物検疫課のダリア・チェレザッド上席農務官らと面談。ハイランド首席公使は「とてもおいしいです」と日本語で感想を話しました。自民党本部では、小泉進次郎農林部会長を訪問し、あんぽ柿を贈呈。試食すると「とてもやわらかくておいしいです」と微笑み、「生産農家の皆様には国際認証取得にご努力をいただき、ぜひとも東京オリンピック・パラリンピックにつなげてほしい」と話していました。

▲農林水産省を訪れた一行

▲あんぽ柿を試食する小泉部会長

餅つき収益金 福祉施設に贈呈

やながわふる里の秋まつり

▲支援金を渡す萩原常務（中央）と紺野代表支店長

伊達地区本部は12月22日、JAまつり梁川会場（11月5～6日開催）で行った「チャリティー餅つき」の収益金、37,370円を梁川町の総合老人福祉施設梁川ホームに贈りました。

同施設で行われた贈呈式には、萩原嘉昭伊達地区担当常務、紺野和之代表支店長が出席し、佐藤正紀常務理事兼施設長に寄付金を手渡しました。佐藤常務理事は「毎年ありがとうございます。有効活用させていただきます」とお礼の言葉を述べました。

LED照明器具を贈呈

伊達市役所で贈呈式

▲目録を贈呈する萩原常務（右）と仁志田市長

当JAはLED街灯150機の贈呈式を1月17日、伊達市役所で行いました。

贈呈式には、萩原嘉昭伊達地区担当常務が出席し、仁志田昇司伊達市長に目録を手渡しました。仁志田市長は「伊達市では街灯の新設と交換を年間約150機行っているので、それらに活用させていただく。市民の皆さんにもきっと喜んでいただける」と述べました。

この取り組みはJA共済の地域貢献活動の一環として行われたもの。LEDの贈呈後、伊達市からは感謝状の贈呈が行われました。

山陰の観光名所を満喫

堰本支店が企画旅行

▲出雲大社をバックに記念撮影

堰本支店企画旅行「日本一の庭園足立美術館と美肌の湯玉造温泉の旅」を10月23～25日に行い25人が参加しました。

今回の企画旅行は、山陰の観光名所を巡る旅を満喫しました。縁結びの神様として知られる日本屈指のパワースポット「出雲大社」や、日本庭園と日本画の調和が素晴らしい「足立美術館」、そして「鳥取砂丘」、「天の橋立」などを巡りました。また、歴史のある玉造温泉では、美肌の湯で体を癒しました。3日間とも天候に恵まれ、参加者から「とても楽しい旅でした」と大好評。親睦も深まり旅行を満喫しました。

32人に修了証を交付

伊達地区農業塾閉講式

▲修了証が受講者一人ひとりに交付されました

5月に開講し全6回開催した伊達地区農業塾の閉講式を12月27日、伊達地区本部で開き、桃コース・きゅうりコースの講義を修了した32人の受講者に、修了証を交付しました。

萩原嘉昭伊達地区担当常務が一人ひとりに修了証を手渡し「学んだことを活かせるようになるには、月日もかかると思いますが、挫けることなく継続していくことが大切」とエールを送りました。その後、担当指導員から今年度の活動報告が行われました。

着物姿で新春祝う

日本の伝統・着物を着る機会楽しむ

▲艶やかな着物姿の参加者

女性部伊達地区本部は1月13日、「平成29年新春きものパーティー」を伊達市保原町のセレビア・スカイパレスで開きました。きものパーティーは着る機会の少なくなった日本の伝統衣装である「着物」を着る機会の創出と、あらためて「着物」の良さを再発見してもらおうと、毎年開催しているもの。会場には、色とりどりの訪問着や色留袖、振袖などで着飾った部員や女性職員、役員ら188人が出席し、輝かしい新春を祝いました。

菅野孝志組合長、佐藤悦子部長が、それぞれ新年のあいさつと共に、今回のような着物を着る機会作りを通して日本の伝統や文化の継承を呼びかけました。アトラクションでは、月舘町の中居洋子さんが祝舞を披露。また、女性部梁川総合支部が取り組む貸衣装をPRする「貸衣装ファッションショー2017」を繰り広げ、江戸褄や色留袖を身に着けた役員や職員が思い思いのステージパフォーマンスで会場を大いに盛り上げました。終盤には、お楽しみ抽選会が行われ、メーカー協賛特別賞や初春賞、初夢賞、組合長賞など豪華賞品が贈られました。

▲江戸褄などの貸衣装をPRしたファッションショー

女性講座「みらい塾」閉講

年間通して見聞を広める

▲真剣に講座を受ける参加者

伊達地区女性講座「みらい塾」の第6回講座と閉講式を1月12日、伊達地区本部で開きました。

最終回の講座では、伊達市健康推進課専門保健師の金安美菜子さんが「健康とはなんだろう?～身体も心も元気になろう～」と題し、データから見る伊達市民の健康状態と、生活習慣病予防やストレスとの付き合い方について講演を行いました。

閉講式では、平成28年度の活動報告が行われ、6回全ての講座に出席した13人に記念品が授与されました。

郷土の伝承料理楽しく学ぶ

全3回コースの教室が終了

▲伝承料理を作る参加者

女性部梁川総合支部は、10月から12月にかけて全3回コースで「伝承料理教室」を開催しました。12月20日には、第3回目の教室を梁川中央交流館で開き、「せり鍋」「いとこ煮」「大根巻の酢漬け」を作りました。

この教室は、郷土の伝承料理を楽しく学ぶために毎年開いているもので、毎回約40人の部員が参加しています。今年はこれまでに、「栗おこわ」「茄子と車麩の煮しめ」「キュウリとわかめの酢の物」「豆味噌」「味噌蒸しパン」「いも床」作りを行い、全3回の教室で9品の伝承料理を学びました。

ジャディスでさわやかな汗

レディース講座閉講式

▲ジャディスを楽しむ参加者

安達地区本部は12月21日、レディース講座の閉講式をラポートあだちで開きました。受講者31人が参加し、ジャズダンスとディスコダンスを組み合わせたジャディスや手作り料理を楽しみながら交流を深めました。

ジャディスは女性部二本松総合支部の菅野淑子さんが講師を務め、振り付けを指導。参加者らは障害を持ちながら音楽活動を行っている本田知美さんの歌に合わせて踊り、さわやかな汗を流しました。その後、円卓を囲み、本田さんの歌を聴きながら持ち寄った料理を味わいました。

おせち料理教室開催

女性部東和総合支部

▲調理をする参加者

女性部東和総合支部は12月20日、東和支店で（株）福島光洋理研による「おせち料理教室」を開催し、部員15人が参加しました。

同教室では様々な調理器具を使い、おせち料理に欠かせない「きんとん」や「伊達巻」「田作り」などを短時間で楽しく作りました。最後に全員で試食をし、味を確かめました。

部員は「手間がかからず作れたので、家でも挑戦してみたい」と話していました。

生け花に挑戦

いきいき講座

▲生け花を作る部員

女性部本宮総合支部は12月27日、安達地区本部でいきいき講座を開きました。今回は部員50人が参加し、正月用の生け花作りに挑戦しました。

本宮市で生花店を経営する鈴木隆則さんを講師に迎え、綺麗に生けるコツなどを教わってから、花を生けました。若松や南天、葉ボタンなどを使いお正月にぴったりな作品が完成。部員たちは「とても綺麗にできてよかった」と喜んでいました。

地域の防犯に役立てて

LED街路灯・防犯灯を寄贈

▲菅野常務（右）と押山村長

当JAはLED街路灯・防犯灯の贈呈式を1月12日、大玉村の大玉村役場で開きました。菅野徳一郎安達地区担当常務が「地域の防犯に役立ててほしい」と押山利一村長に目録を手渡しました。

この取り組みはJA共済の地域貢献活動の一環。防災・防犯分野の取り組みとしてLED街路灯・防犯灯を県内の市町村に寄贈しています。JA管内では福島市、川俣町、伊達市、大玉村、南相馬市の5市町村に全部で467灯贈呈します。

華やかに新年を祝う

新春のつどい

▲踊りを披露する部員

安達地区本部は1月7日、「女性部安達地区新春のつどい」をラポートあだちで開きました。会場には華やかな着物に身を包んだ女性部員やJA役職員ら153人が参加し、新年を祝いました。

同つどいでは、橋本昭子同本部副部長が「自分に誇りを持って、笑顔のある楽しい活動を展開していきましょう」とあいさつし、菅野孝志組合長が祝辞を述べました。

ステージではマジックショーや各総合支部の踊りなどが披露され、参加者らは笑いながら楽しんでいました。最後には全員で「RUN」を踊り、親睦を深めました。

▲「RUN」を踊る参加者

▲かんぱ～い

米粉料理学ぶ

ゆべしやピザなど

▲おやきを作る参加者

安達地区米粉料理研究会は1月17日に本宮中央公民館で、18日に男女共生センターで米粉料理教室の4回目を開きました。同教室には2会場合わせて26人が参加し、米粉料理4品を学びました。

今回はゆべしやピザ、おやき、米粉の肉だんごを入れたスープに挑戦。参加者の皆さんは手際よく調理を行い、短時間で料理を完成させました。

料理を味わった参加者は「もちもちしていておいしい」と笑顔で話しました。

安達地区　毎日の暮らしをサポート・・・JAからのおしらせ

農産物直売所

こらんしょ市

3月16日オープン予定

住所：二本松市駄子内20-1

安達高生が郷土料理作り

第4回食農教室

▲にんじんを切る生徒

当ＪＡは1月19日、県立安達高校で食農教室の４回目を開きました。同高校の生徒36人が参加し、郷土料理作りに挑戦しました。

今回は県の郷土料理「いか人参」と二本松市の郷土料理「ざくざく」を作りました。生徒たちは班ごとに分かれ、人参や大根など地元の野菜を使い、調理を行いました。調理の合間にＪＡ職員が郷土料理が食べられてきた経緯について説明し、完成後には全員で試食しました。

生徒は「今回学んだ料理をこれからも作っていきたい」と話していました。

楽しく体操して初笑い

女性部二本松総合支部

▲ストレッチをする部員

女性部二本松総合支部は1月22日、二本松支店で初笑い健康まつりを開きました。今回は健康体操指導士の荒川保子さんを講師に招き、健康でいるために必要な運動について講話を行いました。

同まつりには部員１４４人が参加し、有酸素運動やストレッチなどを実際に体験しました。

参加した部員は「体がすっきりした」とさわやかな笑顔を見せていました。

直売所会員が児童とふれ合う

本宮小で給食の試食会

▲児童と生産者が触れ合った試食会

生産者とのふれ合いを持ってもらうため、本宮方部学校給食センターは1月25日、学校給食の試食会を本宮市立本宮小学校で開き、こらんしょ市本宮店の会員とＪＡ職員の計6人が参加しました。

給食は福島県の郷土料理献立で、「いか人参」や「ざくざく」が出されました。いか人参の人参はこらんしょ市本宮店の会員が作っているものです。試食会では児童と一緒に給食の味を確かめました。

参加した会員は「子どもたちと食事や会話ができてよかった。これからも安全な農作物を作っていきたい」と話し、生産意欲向上につながりました。

「まごころ弁当」作り

ふれ愛グループまゆみ会

▲弁当作りをする会員

ふれ愛グループまゆみ会は1月26日、安達公民館で「まごころ弁当」作りを行いました。

同弁当はまゆみ会が安達地区社会福祉協議会から依頼を受けて年４回作っているもの。福祉協議会は安否確認事業として75歳以上の一人または夫婦暮らしの高齢者の家に配達しています。

今回は10人が参加し、肉、魚、会員が持ち寄った野菜を使い計５品を調理。ボリューム満点の弁当68食を完成させました。

参加した会員は「おいしく食べてほしい」と話していました。

ママチャリ耐久レースに参加し、農産物の「安全・安心」をＰＲ

青年連盟鹿島支部

▲事務局へ大会協賛品を渡す只野委員長（右）

当ＪＡそうま地区青年連盟鹿島支部の12人は1月7日、静岡県の富士スピードウェイで開かれた「第10回スーパーママチャリグランプリ」に参加し、そうま産の農産物の安全・安心をＰＲしました。

盟友はそうま産「天のつぶ」５袋（１袋５kg）を大会の協賛品として提供。さらに、沼津プロレスのレスラーやレースクイーンと共に、プロレスのリング上から「天のつぶ」の小袋（１袋３００g）を来場者に配布する催しも行いました。お米を受け取った愛知県の来場者は「去年初めて食べたら美味しかった。今年ももらえて本当に嬉しい。大切に頂きます」と感激していました。

▲天のつぶを配布する沼津レスラーとレースクイーン

同大会は毎年開催されているもので、毎回２万人を超える来場者が詰めかけます。レースは約４・５kmのコースをママチャリで走り７時間で何周まわれるかを競う内容です。鹿島支部の盟友がＰＲ活動を行うのは今回で５回目。今年は復興ＰＲのデコレーションをしたママチャリでレースに挑み、１２３・２kmを疾走。全国から集まった１１５６チーム中７６２位という結果でした。

農林中央金庫が水稲再開支援

除草剤購入費を助成

農林中央金庫福島支店は12月21日、そうま地区の水稲作付再開にかかる除草剤購入代に対する補助金贈呈式を当ＪＡ本店で行いました。

同助成は東日本大震災で甚大な被害を受けた農林水産業の復興を支援するために、農林中央金庫が創設した「復興支援プログラム」の一環。南相馬市を中心に長期休耕となっていた水田で大量発生した雑草対策にかかる費用負担の軽減を目的に、除草剤購入費用として３、２００万円が贈られました。

贈呈式では、福島支店の船本勝支店長が菅野孝志組合長に目録を贈呈しました。

▲船本支店長(左)から目録を受取る菅野組合長

伝統行事「稲穂付け」で「家内安全」

そうま地区女性部相馬支部

▲女性部相馬方部員から稲穂を受取る星常務

そうま地区女性部相馬支部は１月９日、相馬中村総合研修センターで、毎年恒例行事の「稲穂付け」を行いました。「稲穂付け」は地方によって「お田植え」とも呼ばれ、豊作や豊漁の祈願、家内安全を願って行う伝統行事となっております。参加者たちは、紅白餅を小さく丸めて枝に付けたり、恵比須・大黒・鯛・ダルマなど縁起の良い煎餅もちを飾りながら仕上げました。

10日には、同方部の伊東千恵子支部長・杉本ちか子さん・岡田美貴子さんらがそうま地区本部を訪れ、星保武常務に「飾ってください」と手渡しました。

地元食材で弁当・豚汁を発売

小高商業とローソンがコラボ開発

▲店頭販売を行った紺野さん（右）と坂下さん

福島県立小高商業高校が「商品開発」の授業で進めてきたローソンとのコラボ商品「小高商業高校発！味わい中華幕の内弁当」と「小高商業高校発！会津味噌仕立ての豚汁」が県内のローソン全店舗で販売されました。

1月13日の発売開始を前に同校の生徒らが前日の12日、県庁を訪れ内堀雅雄県知事に、販売する商品を届け、販売開始や取り組みなどを報告しました。県庁を訪れたのは、株式会社ローソンの藤井謙尚東北運営部運営統括と、同高校流通ビジネス科3年の紺野凪沙さん、坂下睦美さん、齋藤寿校長、菅野光教諭など7人。紺野さんが「地元の食材を使い、お弁当は20～40代の男性を、豚汁は同年代の男女をターゲットに考案。商品を通じて福島や相双地区を知ってほしい」と商品のコンセプトや内容、使用した食材などを説明し、坂下さんが「おかずとご飯のバランスや味付け、パッケージなどを工夫した」と開発までの経緯や苦労などを話しました。内堀知事はさっそく試食すると「素材・味付け・バランス・価格と大変よく吟味されている。お弁当は、メインの油淋鶏などおかずの味付けが良く、白いご飯との相性が良い。きっと多くの皆さんに喜んでいただけると思う」と、生徒らを激励しました。

発売日の13日には、紺野さんと坂下さんの2人が、ローソン原町店で店頭販売を行いました。

▲県庁訪問では内堀知事が試食しました

コンニャク作りを体験

伝統料理教室

▲コンニャクを洗い、出来を確認する参加者

そうま地区は12月9日、伝統料理教室を南相馬市鹿島区の鹿島農村改善センターで開催し、25人が参加しました。

6回目となる今回は、講師の大塚悦子さんにコンニャク芋から作るこんにゃく作りを教わりました。参加者はまず、すりおろしたコンニャク芋をコンニャクの素と一緒に鍋で煮て、それをバットに流し込んで冷やし固めました。固まったものを切り分けて再び茹で上げ、冷水でよく洗ってようやくコンニャクが完成しました。

出来立てのコンニャクを刺身で試食した参加者は「やわらかくて美味しい。上手にできた」と笑顔で話していました。

神谷釗二さんの百歳祝う

年金友の会『長寿祝い』

▲100歳を迎えた神谷釗二さん（中央）

南相馬市原町区青葉町の神谷釗二さんが1月14日に百歳を迎えることを祝い13日に、神谷さんの自宅で長寿祝いの贈呈式を行いました。

式では星保武地区担当常務が感謝状を、牛来芳康原町総合支店長から記念品と誕生日プレゼントを贈呈しました。

ベトナムの世界遺産をめぐる

そうま地区海外全体旅行

▲ハロン湾にて記念写真

そうま地区は平成28年度海外全体企画旅行として「ベトナム 世界遺産めぐりとふれあいの夕べ 5日間」を11月27日～12月1日で行い29人が参加しました。

参加者はベトナム中部のダナンから北上し、ミーソン遺跡をはじめとする数々の世界遺産を観光しました。

特に「海の桂林」と呼ばれるハロン湾ではチャーター船によるクルーズを満喫し、壮大な景色に圧倒されました。夜はベトナムの伝統芸能、食事を堪能し参加者たちは有意義な5日間を過ごしました。

そうま地区　毎日の暮らしをサポート・・・JAからの提案

ファッションフェア 2017

日時 2月18日(土)・2月19日(日)
10:00～18:00　10:00～15:00
会場 JA ふくしま未来
相馬中村総合研修センター 特設会場

Jewelry Collection ジュエリーコレクション
◇真珠祭り 卒業式や入学式、ご結婚式などに・・・。
冠婚葬祭に装いたい、ネックレス・リング・ブローチ等パールジュエリーを豊富にご用意しております。
特別企画
パールネックレスとお好きな留金の組み合わせができます。

Special Price スペシャルプライスコーナー
40～50% OFF
サンプル品、製造終了品等お求めやすい価格での品揃え。
メーカー通常小売価格より40～50%OFFにてご提供させて頂きます。

均一価格コーナー 5万円 税込¥54,000 / 8万円 税込¥86,400 / 10万円 税込¥108,000

◇ダイヤモンド特別企画
限定品
ハイグレードダイヤペンダント。ダイヤの品質にこだわって、ルースの良さが際立つ6本爪でお届けします。
PT900 0.5ct ダイヤペンダント 税込194,400円（本体価格180,000円）
PT900 1.0ct ダイヤペンダント 税込345,600円（本体価格320,000円）
その他、指輪、ネックレス、ピアス等豊富に取り揃えております。
アフターサービス
◆洗浄
◆指輪サイズ直し（±2サイズ以内）
◆ネックレス修理
上記のうちいずれか1点承ります

Men's Collection メンズコレクション
特別企画品〈1日10着〉限定
スーツ（お仕立て上り）税込￥33,000（本体価格￥30,556）
シングルスーツ（お仕立て上り）税込42,984円（本体価格39,800円）～
フォーマルスーツ（お仕立て上り）税込39,744円（本体価格36,800円）～
ジャケット（お仕立て上り）税込46,440円（本体価格43,000円）～
2017 Men's Personal Order

Ladies' Collection レディスコレクション
◇レディス特別企画
2017 Ladies' Collection
あなたを美しく彩るファッションとの出会い…。
限定品 30%OFF・50%OFFコーナー
◇ブラックフォーマル
フォーマルスーツ 税込41,040円（本体価格38,000円）～
フォーマルバッグ 税込16,200円（本体価格15,000円）～
フォーマルパンプス 税込19,440円（本体価格18,000円）
◇コート
Ladies' Coat Collection
コート 税込32,400円（本体価格30,000円）～
◇バッグ
Bag Collection
バッグ 税込21,600円（本体価格20,000円）～

会場内特典
ご来場記念品 ご来場時に会場にてお渡しさせていただきます。
ご購入記念品 ご購入の方にもれなく
おくつろぎコーナー
ご購入の方にさらに、特別企画 お楽しみ抽選会
皆様のご来場をお待ちしております

気の向くままに 散歩道 おでかけみらいろ〜ど

南相馬市鹿島区編

今回はそうま地区本部がある南相馬市鹿島区地域です。地元で親しまれるお店や公園、東日本大震災で奇跡的に1本だけ残った松などを紹介します。

1 菓子司 松月堂

明るくゆったりとした店内

窯出しシュークリームぜひ食べてください！

国道6号線沿いに店舗を構える松月堂。和、洋菓子を多い時では約140種類ほど揃えます。その中で、そうま産のもち米を使った「まいたけおこわ」は人気№1。このおこわは、熟練された技術によって絶妙な食感に仕上がっており、食べた人を魅了します。

また、新鮮なクリームを詰めて提供することにこだわった「窯出しシュークリーム」も人気です。購入してから生地にクリームを入れてるので、生地のサクッとした食感とトロッとしたクリームの甘い香りを一層味わえます。

この他にもプリンや野馬追パイなどもおすすめです。

一度食べたらやみつきになること間違いなしの「まいたけおこわ」

店舗情報

- 所在地　南相馬市鹿島区横手八反田15
- 電　話　0244-46-2202
- 営業時間　8時30分〜18時00分
- 定休日　年中無休

2 セデッテかしま

常磐自動車道の南相馬鹿島サービスエリアに隣接する施設の「セデッテかしま」は、駐車場が広く確保されているため、県内外から多くの方が訪れます。施設内は、相馬野馬追などの観光情報を紹介する「エントランスホール」、地域の食材を生かしたメニューを提供する「お食事処」、農産物や地域の逸品・珍品が並ぶ「お土産処」、行事や催しの開催や休憩スペースとして利用できる「コミュニティ広場」、地域の飲食店3店舗が出店する「テイクアウトコーナー」の5つに分けられます。

相馬野馬追のオブジェが目を引く「エントランスホール」

施設情報

- 所在地　南相馬市鹿島区浮田字椴木沢212−1
- 電　話　0244-26-4822
- 営業時間　8時00分〜20時00分
※お食事処は11時00〜

「お土産処」にはJAの6次化商品も数多く並ぶ

3 桜平山公園

春は桜、秋はコスモスが彩る桜田山。ここには、1200余年前、笠郎女（かさのいらつめ）が大伴家持への思いを詠んだ万葉歌碑や万葉植物園が併設されており、現在は万葉公園として親しまれています。太平洋が一望できる高台から花見を楽しむことができます。

公園内に建つ万葉歌碑　辺り一面に咲き誇るコスモス

■住所　南相馬市鹿島区江垂

4 奇跡の一本松

奇跡の一本松と言えば岩手県が有名ですが、南相馬市にも存在します。奇跡の一本松がある南右田地区には東日本大震災前、数万本の松の木による保有林が広がっていました。しかし、同震災の津波の影響でそのほとんどが倒壊し、残った数十本も枯死しました。唯一生き残った一本の松は地域の希望の象徴として、地区全体で保存活動を行っています。

高さ約25m、根回り約2mの「奇跡の一本松」

5 みそ漬処「香の蔵 本店」

香の蔵は1940年の創業以来、日本の伝統食である漬物を作り続けています。時間と手間暇をかけて作られるみそ漬は、味わい深く食べやすいのが特徴です。数ある商品の中で特に人気なのが「クリームチーズのみそ漬」です。若い世代に食べてもらいたいという考えから開発され、販売開始後すぐに人気商品となり、今も多くの方に好まれています。チーズの他に、とうふやあん肝などのみそ漬も販売しています。

マネージャーの岩井哲也さんは「みそ漬の可能性は無限大。今後もいろいろな新商品を提供していきたい」と話していました。

甘めのみそで漬けたクリームチーズは上品な味わい

種々のみそ漬が並んでいる

試食もできる

落ち着きのある店内

香の蔵施設内にある相馬野馬追甲冑館。無料公開している。

店舗情報

- 住　所　南相馬市鹿島区永田字北永田28-3
- 電　話　0244-46-2233
- 営業時間　9時00分〜18時00分
- 定休日　元旦

※エスパル福島 JR駅側1階でも購入いただけます

参加できなかった方必見！

「農業経営講演会＆新規就農相談会」レポート

当JAは12月10日、新規就農を希望する方や管内の中心的な担い手を対象に「農業経営講演会＆新規就農相談会」をJA福島ビルで開きました。新たな農業者の確保や育成を目的に、研究者やプロフェッショナルによる講演を通して農業の魅力や様々な取り組み、想いを参加者に伝えました。

「講演会が新たな新規就農支援の出発点となることを期待する」とあいさつする菅野孝志組合長

■【講演①】担い手が育つ農業経営と福島が目指すべき方向

講師：福島大学経済経営学類教授　小山良太　氏

■新規就農定着について

各県で差はあるが、一般企業の離職率は約30％の一方、農業分野は定着率が約50％と厳しい状況である。

■暮らしとなりわい

農業で生活をするのは民間企業のサラリーマンとは違い「**暮らしとなりわいのバランス**」を上手にとる必要がある。

①受け入れ体制のシステム化（属人化させない）

②暮らしの面での関係性の強化（行事、家族関係、学校等）

③属性別組織基盤の有無、世代組織、趣味・サークル、新年会、忘年会、村祭りへの参加

福島県内でも地域差があり、就農5年後に100％離農する地域もあれば、70％定着するような地域もあり、それは暮らしを担保できるような属性別の組織の存在の有無が関わってくる。例えば、若手農業者の会、農青連、生産部会、趣味、サークルなど、コミュニティーを広げることが大切。

■生業（なりわい）（事業・経営だけでなく）

①既存の農業関係組織・団体との関係（農業委員会、集落組織、農協、土地改良区）

②営農類型、所得目標の明確な提示（産地戦略）

③農業をやる目的、農村で暮らす意義を共有（バリバリ型or農的生活型）

新規就農には大きく2つのタイプがある。1つ目は高い経営目標をたてるバリバリ型。2つ目は稼ぐことではなく農村で暮らすことが目的の農的生活型。自分がどちらを目指すのか方向性を定める必要がある。福島県は稲作・園芸・果樹などやりたい品目が全部できるバランスの良い総合産地である。また、生活するにも子育て等を含め暮らしやすい環境にある。

■優れた師匠を見つける

若い世代で農業に定着している人は、優れた師匠を見つけ、相談やアドバイスをもらうなど良好な関係を築いている。

■自己分析をする

年間のサイクルとして、2月に営農類型所得目標を定め、営農計画を設定する。終了したら作物、品目、圃場別に、コストや収入などを数字で検証をすること。この基本的なことをするだけで、経営戦略、モチベーション、次年度やるべきことがみえてくる。

■【講演②】儲かる農業

講師：農業生産法人㈲トップリバー代表取締役社長　嶋崎秀樹　氏

■嶋崎氏の経歴と㈲トップリバー

長野県生まれで、東京で菓子製菓の営業マンを経験。妻の実家の長野県の青果会社を承継し、平成12年にレタス・キャベツの自社生産に挑戦。2年目から農業に情熱を持った全国の素人を研修生・社員として毎年受け入れをする。研修生は6年で独立させ、全国に就農している。契約栽培で売り上げは当初の3000万円から11億6000万円に拡大。契約栽培は定まった日に契約数量を納品する義務があり、自社生産量が不足の場合は契約農家やJA・市場仕入れで損をしてでも納品する。契約栽培はレタス・キャベツ・ねぎが可能。自分自身は直接農作業はせず、社員の報告に定期的に指示をする。今は農産物の生産・販売は手段で、全国での講演を含め、農業経営者育成が仕事。今まで感じた「農業の魅力と儲かる農業」「地域の活性化」を伝えたい。

■農業を始める心構え

農業は考え方・信念・心の持ち方で結果が変わる。「うまくできなかった」「雨が降った」「天候に恵まれなかった」「儲からなかった」と嘆く人がいる一方、儲かっている人は儲かっている。

また、現在の農業には3つのタイプがある。「農家」は生業、先祖伝来の農地を守り、自分の幸せ・楽しみで十分な自給的農家のこと。「農業者」は自分も幸せになるけれど、お客様・実需者も幸せにする販売農家のこと。「農業経営者」は、アルバイト・季節・年間・従業員雇用で雇用者を幸せにし、地域を活性化させる雇用型経営農家のこと。

■農業経営者の必要性

10年後、20年後、周りが離農した時に、誰が農地を守るのか。誰が地域を活性化させるのか。それは、儲かる家族農業経営にプラスして人を雇って規模拡大し、就農者を育成できる農業経営者や地元組織である（法人化は必ずしも必要ない）。これが、地域の過疎化を防ぐ鍵。

また、産地として捉えた場合、家族経営だけでなく雇用型経営体の存在で、東京・大阪・首都圏・関西圏・九州圏（国）に出荷（輸出）して獲得した販売代金（外貨）が、農家だけでなく、雇用者の家族、共選場従業員や地元商店に還元・循環されている姿が鍵。

■経営感覚をもった農業経営者になるには

第一に、数字が全て。高反収・高秀品率・おいしいものづくりは農業者として当たり前で、利益を生み出す損益分岐点（PL）の売上高の把握、売上と経費のバランスの理解が必要。

第二に、学ぶ事。特に「雇用学」が必要。労働災害保険、雇用保険、健康保険、年金保険が必要になる。

第三に、目標を定めること。1年後、2年後、3年後…の売上目標・農業所得を決めた方が良い。そして、そのために取り組むことを書く。目標のない経営はない。

■「儲かる農業」のポイント

「儲かる」ことが目的ではないが、儲かることはいいことである。儲からない産業・経営体は衰退する。「儲かる農業」のポイントは「①努力した結果が儲かること。努力しない人は儲からない。」「②一番を目指す。そして小さい成功に決して満足しない。」「③予習が大事。春の作業を冬に考える。来年の作付を前年末までに決める。」「④営業が大事。だから、JAの販売担当者の役割は重要。」「⑤あらゆる情報を集め決断。」である。

■JAグループとのつながり

トップリバーほど、JAグループと連携している農業生産法人はない。千葉県の袖ケ浦農場は地元のJA君津の協力で誕生した。また、長野県富士見町に平成27年度より5年間でレタス類で100haの産地づくりに富士見町・JA信州諏訪と取り組み、遊休農地の解消と新たな雇用につながる予定。県市町村の方々にも、JAと連携しいつでも耕作できる農地維持に取り組んで欲しい。また、45人の社員の内3人はJA営農指導員OBである。各地のJAからも「卒業生を送ってくれ」と依頼される。

■トップリバーを設立・運営して良かったこと

毎年、12月1日に同じ釜の飯を食べた研修生社員約6人が涙を流して巣立つ姿を見送るとき。鳥取県の200ha余の農事組合法人に就職した卒業生3人の働きぶりを見た県会議員が「どうしたらこんな統率力のある若者を育てることができるのか」と視察に来たとき。地元の農業法人会長が「お宅の研修生・社員の目が輝いているね」と経営者・管理者の私でなく社員を褒めてくれるとき（経営者・管理者冥利に尽きる）。

■JAふくしま未来管内の組合員農家へ

是非、ふくしま未来管内の組合員農家の子弟もしくは就農希望者を一人でもトップリバーに送り込んでほしい。そして、親元か管内で就農し、トップリバーが求めた「パート・社員を育て自分の家族だけでなく雇用者の家族、地域を幸せにできる農業」の拡大とその遺伝子を残して欲しい。その実現を信じてこれからも全国のJAや農業団体で講演を続けたい。日々、研鑽・健康・事故予防・災害時被害事前防止で頑張って欲しい。

☆読者プレゼント☆

㈲トップリバー嶋崎秀樹氏の書籍『農業維新』を抽選で10名様にプレゼントします。

《応募方法》

●ハガキでのご応募

〈必要事項〉郵便番号・住所・電話番号・氏名・記事に関するご意見・ご感想等を明記の上、下記宛名までご郵送ください。

〈応募締切〉平成29年3月10日（金）

〈応募宛先〉〒960-0185　福島市北矢野目字原田東1-1
ＪＡふくしま未来営農部農業振興課まで

●FAXでのご応募

〈FAX先〉左記必要事項をご記入の上FAX番号（024－529－6512）まで送信願います。送信後、農業振興課（024－573－1303）にご一報いただければ幸いです。

当選発表は厳選な抽選の上、商品の発送をもって発表にかえさせていただきます。抽選に漏れた方にも当日の資料を差し上げます。また、書籍応募以外の方で当日の資料をご希望の方は営農部農業振興課までご一報願います。

複数年契約栽培の取組み

平成30年産以降の米政策が大幅に改革されます。ＪＡふくしま未来では、生産者の所得安定確保のため、新たに「3年間の複数年契約」に取り組みます。

複数年契約のイメージ

契約年度	契約年度産米	2年目産米	3年目産米	契約の更新
29年3月	29年産米	30年産米	31年産米	32年度契約更新
（最低保証価格） 概　算　金	3年間同一単価とします。 11,000円/60kg（H29年度分）			契約年度毎に設定します。
精算	年産毎に精算をおこないます。			

契約条件　①品種：「天のつぶ」②契約面積：50a以上　③生産調整達成者とします。

契約内容

①3年間の複数年出荷委託契約とし作付面積に基づく数量契約とします。
②期間中の買入時支払う概算金は、3年間同一単価とし精算時最低保証価格とします。
③栽培基準に基づき栽培することとします。《総窒素量10kg/10a以内、玄米タンパク質7%以内とします》
④農産物検査を受検し3等以上の規格とし等級間格差は共計米価格差とします。
⑤出荷契約金を契約数量に応じて共計米に準じて支払うことができるものとします。
⑥年産毎に販売終了後、複数年契約分のみの精算をおこないます。

契約受付期間　平成29年3月31日
受付場所　各営農センター

■ＪＡふくしま未来実績（開催日　1月16日・17日）　単位:円（税込み）

性	入場	成立	平均価格	最高価格	最低価格	体重	kg単価	平均日令	前月価格	前月比
雌	75	73	787,216	1,435,320	496,800	283	2,784	292	822,871	-35,655
去	88	87	918,807	1,373,760	639,360	313	2,937	288	930,128	-11,321
計	163	160	858,769	1,435,320	496,800	299	2,871	290	883,134	-24,365

■福島県家畜市場（開催日　1月16日・17日）　単位:円（税込み）

性	入場	成立	平均価格	最高価格	最低価格	体重	kg単価	平均日令	前月価格	前月比
雌	337	332	784,435	1,621,080	346,680	289	2,716	294	811,118	-26,683
去	393	392	915,242	1,373,760	35,640	315	2,903	286	936,917	-21,675
計	730	724	855,259	1,621,080	35,640	303	2,821	290	880,975	-25,716

■乳牛せり市場（開催日　1月19日）　単位:円（税込み）

	成立	平均価格	最高価格	最低価格	体重	kg単価	前月価格	前月比
登録牛	7	396514	452,520	345,600	188	2114	396514	0
妊娠牛	5	966,168	1,410,480	771,120			779,220	186,948
ET和雄	6	671,400	736,560	604,800	101	6,647	672,119	-719
乳雌牛	1	33,480	33,480	33,480	59	567	33,480	0
乳雄牛	35	84,826	116,640	27,000	72	1,185	130,073	-45,247
F1雌（育成）	13	401,843	454,680	291,600	294	1,368	373,514	28,329
F1雄（育成）	21	492,252	547,560	378,000	346	1,425	462,672	29,580
F1雌（スモール）	54	177,660	282,960	108,000	68	2,608	218,736	-41,076
F1雄（スモール）	63	367,200	367,200	96,120	73	3,280	308,436	58,764

ワンポイントアドバイス

つなぎ運動で落ち着きのある牛を子牛を出荷する前には、つなぎ運動をして牛に落ち着きが出るようにしましょう。（平らな場所で顔を持ち上げ、繋留棒に頭絡を密着させ、まっすぐ結びつける事）つなぎ運動とブラッシングをすることによって、生産者になつき出荷時のトラックへの誘導がしやすくなるので、出荷の2ヶ月前から行うようにしましょう。

よくわかる！ＪＡ講座 ⑥

テーマ

ＪＡの組合員について

第６回目となる今回は、「ＪＡの組合員について」がテーマです。ＪＡには准組合員制度があるのが特徴で、正組合員と准組合員がそれぞれの立場から、ＪＡを利用し支えています。今回は、正組合員と准組合員にスポットを当て、その関係について考えます。

合併により大規模化するＪＡですが、そのたびにＪＡは組合員との関係性の再構築を図り変化しています。しかしその一方で変わらないものもあります。

ＪＡ改革しても、変わらないものがある

先人が築いてくれた農業協同組合の礎。ＪＡは組合員の負託にこたえるため改革に取り組み、合併で大型化し、組合員数も事業量も飛躍的に増加しました。一方で組合員が世代交代し、ＪＡとの距離感が少しずつ変わっています。支店や施設の統廃合などによって、心理的にも距離的にも組合員から遠くなり、ＪＡと組合員の親近感が薄れてきていることは否めません。

ＪＡがこれまでと変わらずに組合員や地域に必要とされるためには、ＪＡ自らが改革して変わらなければなりません。ＪＡは常に組合員との新たな関係性の構築に取り組んでいます。

しかし、協同組合の原点である“相互扶助”や“自主自立”の精神が根底にあることには変わりありません。この精神こそが、脈々と次代に引き継ぐべき協同組合の貴重な財産なのです。

正組合員と准組合員の関係

ＪＡには、正組合員のほか、准組合員制度があります。農業者以外でも正組合員同様、ＪＡごとに定めた一定の出資金を払えば、准組合員として組合に加入できます。准組合員は、ＪＡの事業を正組合員と同じように利用できます。

平成２６年３月末で正組合員が４５６万人であるのに対して准組合員は５５８万人と、正組合員を１００万人以上、上回っています。高齢化等により年々正組合員は減少していますが、事業利用を目的とした准組合員は増加しています。

正組合員が多様である様に准組合員である地域住民もまた、性別や年齢、職業、農業との関係度合いなどは多様です。こうした多様な組合員の悩みや問題を解決し、豊かで幸せな暮らしを築き上げていくことがＪＡの仕事です。

第２７回ＪＡ全国大会（平成２７年開催）では「正組合員は“農業振興”を担い、准組合員はそれを応援する。そして正・准組合員が一緒になって“地域振興”を実現する」と、その関係を位置づけています。

正・准組合員の違い　正・准組合員の違いは、正組合員には議決権が与えられていますが、准組合員には与えていないことです。つまり准組合員は正組合員と違い、総会での議決権や役員の選挙権等、ＪＡの運営に関与できません。これは、ＪＡが農業者を中心としてその運営を担ってきた経過によるものです。このことが「農業者の協同組合」であることを制度的に裏付けているのです。准組合員制度を問題視し、「准組合員の利用制限」が国より提起されていますが、准組合員の利用によって正組合員の事業利用が妨げられたり不利益を受けることはなく、筋違いというものでしょう。ちなみに准組合員制度は生活協同組合にはありません。

笑味（えみ）ちゃん（小学２年生）
いつも明るく元気な女の子。
好奇心おうせいで、思っていることは素直に口にします。
食べることが大好きです。
国産農産物の消費拡大と食料自給率向上を目指した「みんなの良い食プロジェクト」のシンボルマークです。

JAグループ福島
耕そう、大地と地域のみらい。
みんなのよい食 プロジェクト

高品質なあさつきを栽培

種やほ場の管理を徹底

安達地区　佐藤（さとう）　喜平（きへい）さん　佐知子（さちこ）さん

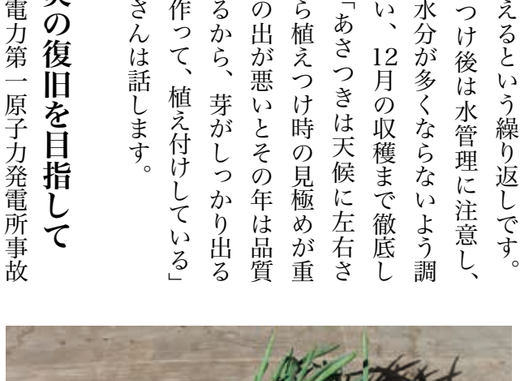
当ＪＡでは農業所得向上を目的に農業所得アップ「みらいろ！テン」運動の実践に取り組んでいます。このコーナーでは、所得向上の秘訣などのお話しを伺っています。

～土と光と水と～　農業人（のうぎょうびと）

二本松市安達地域で冬の特産物として親しまれているあさつき。当ＪＡ安達地区あさつき部会では30件の農家が５３０ａの栽培に取り組んでおり、年間約40ｔを県内をはじめ仙台や関東方面などに出荷しています。今回は同部会副部会長を務める佐藤喜平さんにお話を伺いました。

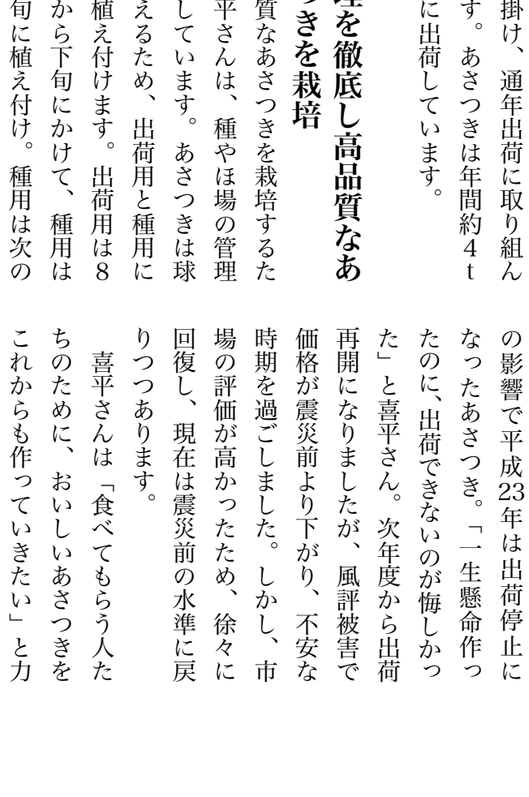
◆父から受け継ぎ専業農家に

学生の頃から養蚕やあさつき、水稲などを手掛ける父の手伝いをしていた喜平さん。高校を卒業と同時に就農し、約50年間あさつきの栽培に取り組んできました。今の栽培技術は父から受け継いだものです。当時、同地域では養蚕が盛んだったため、大半の農家が養蚕を行っており、喜平さんもその中の１人でした。しかし、養蚕の価格が下落したことを受け喜平さんは、桑畑をあさつき畑に転換し、あさつきの面積を10ａから30ａに拡大しました。さらにきゅうり栽培も始めました。現在はあさつきのほかに、きゅうり20ａ、水稲80ａを手掛け、通年出荷に取り組んでいます。あさつきは年間約４ｔをＪＡに出荷しています。



▲あさつきの土を洗い流します

▲重さを量り、丁寧に袋詰め



▲あさつきを掘り起こす喜平さん

◆管理を徹底し高品質なあさつきを栽培

高品質なあさつきを栽培するために喜平さんは、種やほ場の管理を徹底しています。あさつきは球根で植えるため、出荷用と種用に別けて植え付けます。出荷用は８月中旬から下旬にかけて、種用は９月上旬に植え付け。種用は次の年の５月に掘り起こし、乾燥させ、また植えるという繰り返しです。

植えつけ後は水管理に注意し、土壌に水分が多くならないよう調整を行い、12月の収穫まで徹底します。「あさつきは天候に左右されるから植えつけ時の見極めが重要。芽の出が悪いとその年は品質が落ちるから、芽がしっかり出る環境を作って、植え付けしている」と喜平さんは話します。

◆震災の復旧を目指して

東京電力第一原子力発電所事故の影響で平成23年は出荷停止になったあさつき。「一生懸命作ったのに、出荷できないのが悔しかった」と喜平さん。次年度から出荷再開になりましたが、風評被害で価格が震災前より下がり、不安な時期を過ごしました。しかし、市場の評価が高かったため、徐々に回復し、現在は震災前の水準に戻りつつあります。

喜平さんは「食べてもらう人たちのために、おいしいあさつきをこれからも作っていきたい」と力強く話します。

▲安達特産のあさつきは白い茎と鮮やかな緑が特徴

研究の成果を発表 課題研究発表会を実施

福島明成高校は1月23日、生物生産科と食品科学科の課題研究発表を行いました。発表をした3年生の皆さんは、昨年4月から取り組んできたそれぞれの研究の成果を、2年生や担当教員の前で報告しました。

生物生産科の施設園芸コースでは6つの班が発表しました。JR福島駅前の花時計や介護施設での花植え活動の経験を通して気づいた園芸福祉の効果の発表、廃棄野菜の有効利用の一つとしてドライトマト作りに挑戦した内容の発表、高品質なもも生産に向けてヨーグルト散布を実践して効果を検証した発表など高校生ならではの観点で行った研究成果が披露されました。

同様に、同科の栽培飼育コースでは8つの班が発表。牛の熱中症対策としてグリーンカーテンに取り組んだ研究の発表では失敗から学んだことをしっかり考察し、牛がストレスを抱える原因となるサシバエの駆除についての発表では「みりん」の原材料に着目した分析をしました。

また、食品科学科の会場では10つの班が発表を行いました。当JA福島地区の「家の光大会」でも発表されたあんぽ柿を利用した商品開発の発表では、商品開発を通じて多くの方に福島の魅力を発信した経験を発表。㈱福島丸公とのお惣菜の共同開発では、多くの失敗を重ねながら、お弁当を作り上げた苦労を説明しました。

発表を聞いた2年生は「将来農家になろうと思っているので、参考になる良い話を聞くことが出来た」「どの発表も面白かった。発表の中に出てきた商品を食べたいと思った」と、3年生の心のこもった発表に大満足の様子でした。

発表を終えた3年生も、「3年間明成高校で勉強してきた集大成として、良い発表が出来た」と充分に力を発揮できた様子でした。この日の発表会をもって、3年生の課題研究の授業が終了となりました。

▲園芸福祉の効果を発表

▲「研究が楽しかった」と振り返る食品科学科の生徒

▲種もみの塩水選濃度の違いが及ぼす影響を考察

▲プレリッチ大福の開発に挑戦した動機を説明

▲発表前の緊張した面持ち

▲グリーンカーテン作りの工程を紹介

▲関心が集まった「ヨーグルト農法」の発表

▲サシバエが牛に及ぼす影響を解説

平成28年度
福島明成高校課題研究発表会
発表内容

生物生産科　施設園芸コース

1	園芸福祉からの被災地復興 ～草花でまちを元気に～
2	園芸活動を通して地域復興を根ざす研究
3	トマトに色々散布してみた
4	廃棄野菜の有効利用について
5	溺れるメロン
6	ヨーグルト農法を試みて ～高糖度モモ生産への挑戦～

生物生産科　栽培飼育コース

1	廃棄卵を利用した卵油製造を試みて
2	畑作物と6次産業化
3	僕らのダイズ
4	種もみの塩水選濃度の違いによる 収量に及ぼす影響
5	牛の熱中症対策
6	牛のストレスフリー！ ～サシバエ駆除大作戦～
7	明成産有機肥料の販売再開を目指して
8	ネズミの防除と鳥インフルエンザ

食品科学科

1	経営・マーケティングプログラム ～君に届け！私たちの歩んだ10ヶ月～
2	あんぽ柿を利用した商品開発
3	株式会社福島丸公との共同開発 ～お弁当・お惣菜作り～
4	経営マーケティングプログラムの実践 ～プレリッチ大福の製造～
5	福島丸公との商品開発
6	地産地消を目指した新商品開発
7	福っ魂の商品開発
8	アレルギー対応食について
9	経営マーケティングについて ～いちごメロンパンの製造～
10	4年間の足跡 ～パウムラボ樹楽里との共同開発～

元気にすくすく みらいっ子

福島地区

福島市飯坂町
- 安齋　秀俊さん、美春さんのお子さん
- 秀一（しゅういち）くん（5歳）、美里（みさと）ちゃん（2歳）
- いつも仲良くあそんでいる二人です。元気に育ってほしいです！

安達地区

本宮市本宮
- 辻　泰博さん、順子さんのお子さん
- 琉璃（るり）ちゃん（4ヶ月）
- 元気に成長してくれてありがとう！笑顔が似合う子に育ってね！

そうま地区

鹿島区西町
- 福島　雄飛さん、瑠奈さんのお子さん
- 結斗（ゆいと）くん（2歳）
- 車で遊ぶの大好き。すくすく育ってね♪

伊達地区

伊達市梁川町
- 佐藤　寛朗さん、智美さんのお子さん
- 伊頼（いより）ちゃん（9ヶ月）
- 動くの大好き♪

みらいろ作品展

岡崎 イクさん（桑折町）

八巻 美奈子さん（伊達市梁川町）

佐藤 弘美さん（福島市）

菅野 恵子さん（桑折町）

大石 久子さん（二本松市）

佐藤 ヨシさん（二本松市）

叶井 範子さん（南相馬市小高）

曳地 美雪さん（伊達市梁川町）

武田 みよさん（桑折町）

宍戸 フミさん（桑折町）

岡崎 イクさん（桑折町）

佐藤 和子さん（伊達市保原町）

桑折 ツネ子さん（南相馬市原町）

作品募集中！

絵手紙、川柳、俳句などの作品を募集いたします。住所・氏名・年齢を明記の上ハガキまたは封書にて、お送りください。また、「みらいろ」を見てのご意見、ご感想もお待ちしております。
応募締切は2月22日必着です。

〒960-0185
福島県福島市北矢野目字原田東1-1
JAふくしま未来「みらいろ作品展」係

※応募多数の場合は、掲載できない場合もございます、あらかじめご了承ください。

俳句・短歌・川柳

俳句

新年を無事に迎へる幸せを
梅村 チヨさん（南相馬市原町）

お年玉曽孫が喜び恵比寿顔
吉田 フサ子さん（南相馬市原町）

避難して故郷恋し寒つばき
吉田 昭雄さん（南相馬市原町）

雪ざくら裏山 眩し旅の宿
下駄ばきの友なつかしく砂利の道
佐藤 ツネさん（福島市）

月隠れ雨戸をたたく小夜時雨
清水 義宏さん（相馬市）

西の山茜に染めて年暮るる
冬枯れの枝に咲いたり雪の花
石幡 洋一さん（桑折町）

不っ生の夕餉芥菜男泣く
志賀 隆雄さん（南相馬市原町）

モモ色のゴム手冷たし若菜摘む
禰宜様の声高々と春祭
佐藤 ヨシさん（二本松市）

松送り拝む心に春を待つ
今年（こんねん）もおみくじひいて運だめし
佐藤 弘美さん（福島市）

農の初めに夢をたくして鍬ふるう
夏山 繁樹さん（福島市）

軒先の干し大根と月影よ
福寿草我が家の庭に芽ばいたり
富田 直子さん（水戸市）

鏡もち白い心に角はなし

短歌

孫嫁とヒコにも上げてお年玉
親に感謝し酉の年かな
お正月ならねば切るぞ肥や水
答えてくれた柚子の実眩し
吉田 英子さん（梁川町）

明け五日陽射し明るく寒の入り
梅の開花に道真を想い
正月にずっしり実る紅白の
萬両の姿君を愛でたく
岡崎 英也さん（桑折町）

仮設所の車も日ごとまばらなり
嬉しくもあり心は重し
安藤 直子さん（南相馬市鹿島）

豆蒔きて座敷童子もいとおしき
かつては五人横笛一人
清水 義宏さん（相馬市）

川柳

淋しさもつまみにすれば深い味
孫帰り本格的に大掃除
畑山 晶子さん（南相馬市鹿島）

トリ年に願いをかけたい早起きを
菅井 昭子さん（国見町）

被災地へ異次元ドローン青い鳥
鈴木 清子さん（相馬市）

高齢者免許返納天高し
佐藤 忠良さん（二本松市）

男性は女性のナビに生かされる
浜野 春江さん（新地町）

梅の香が部屋中漂う正月の日々
夜明け前日本の歌で今日のはじまり
佐藤 福子さん（二本松市）

鹿狼山背伸びしている冬の朝
みらいろで活字追いかけ知識得る
豆まきで声高らかに祖父と孫
渡辺 絹子さん（福島市）

当たったど夢で買い物宝くじ
松坂 義秀さん（南相馬市原町）

小寒に寒さ知らず寒椿
藤原 静子さん（南相馬市原町）

旗日でも誰も立てずとは時の流れか
藤原 馨さん（南相馬市原町）

友からの肉筆賀状読み返し
志賀 方次さん（南相馬市原町）

党首討論で犬猿不仲似つかぬように
引地 茂さん（南相馬市原町）

隆夫さん糸図つくりに皆感謝
太田 三秀さん（南相馬市原町）

窮地には亡き父の声ハットする
大畑 敦子さん（南相馬市原町）

くねる都小路走る選手に雪舞（ゆきま）う
太田 幸子さん（南相馬市原町）

避難児童に差別行動速罰だ
三浦 良一さん（南相馬市原町）

死刑廃止論者の家族に災あれば
藤原 實さん（南相馬市原町）

外国テロ多数殺され日本ならどう？
前川 充さん（南相馬市原町）

クマちゃんも人に加害多く悪獣なり
藤原 和子さん（南相馬市原町）

相撲とり勝っても笑顔見せぬとは？
武山 勇一さん（南相馬市原町）

悪魔拂い躍る人なし神楽がアクビ
藤原 菊雄さん（南相馬市原町）

厳寒吹雪10a梅剪定夫の強意志に感謝
藤原 洋子さん（南相馬市原町）

トランプさんトランプに勝ち得た言葉ちょっとマティスと
米国防長官
藤原 元気さん（南相馬市原町）

いま、ＪＡで給与受取口座を新たにご指定いただくと

松下奈緒のＪＡバンクオリジナルQUOカードをプレゼント！

5,000円分

応募者全員に!

※下記の「対象取引」の条件を満たしている方に限ります。

※QUOカードのデザインにつきましては、実際のものとは異なる場合がございます。

お申込期間

平成29年2月1日～5月末日まで
（申込書:当日消印有効）

お申込みの流れ

step 1 給与受取口座のご指定（給与振込依頼書のご提出）

お勤め先ご所定の「給与振込依頼書」の給与受取口座欄に農協名、支店名、口座番号などをご記入のうえ、お勤め先にご提出ください。なお、QUOカードプレゼントのお申込みの前に提出いただいても構いません。

step 2 QUOカードプレゼントのお申込み

□ハガキ or

お近くの店頭にて受け取れる申込ハガキまたは、下記アドレスよりお申込みください。

http://www.jabank.org/ ＪＡバンク 検索

キャンペーンページは平成29年2月1日から開設を予定しております。

対象取引

平成29年2月から6月に新たにＪＡで給与受取口座を指定し、いずれかの月において5万円以上の給与のお受取りが確認できたお客さま。

景品発送

景品は、平成29年9月頃までに、宅配会社もしくはＪＡを通じてお届けさせていただきます。

注意事項

＊お申込みはお一人様1回とし、国内在住の個人のお客さまに限ります。また、昨年度に当企画の景品を受領されたお客様は対象外とさせていただきます。＊ご記入内容に漏れ等がある場合には、無効になる可能性がございます。また、長期不在・転居先不明でお届けできない場合は無効とさせていただきます。なお、JAにおける住所変更届による景品のお届け先変更はできませんのでご了承ください。＊詳しくはお取扱いのＪＡ窓口までお問い合せください。

JA教育ローン

現在ＪＡとお取引のない方もご利用ができます

変動金利 年1.35% 保証料別途 年0.55%

さらに!! JAカードご契約の方は 年0.1%軽減!
さらに!! ファミたんカード所有者は 年0.1%軽減!
さらに!! JA住宅ローンご利用の方は 年0.1%軽減!

上記1項目につき0.1%金利軽減し、最大2項目0.2%を金利軽減いたします。

変動金利 年利 **1.15%** 保証料別途 年0.55%

上記1.15%の金利は、特別金利1.35%からJAカード契約者0.1%、ファミたんカード所有者0.1%、住宅ローン利用者0.1%、最大0.2%を軽減した金利です。

（平成29年2月1日現在）

商品概要

お使いみち	入学金・授業料（高校・高専・短大・大学・専修大学・各種学校）の他に施設費など、学校へ納入する資金および就学のためのアパート等入居費用にご利用いただけます。
ご利用いただける方	お借入時年齢が20歳以上で最終返済時の年齢が71歳未満の方
お借入期間	据置期間を含め最長15年以内。（在学期間+9年以内）
お借入限度額	1,000万円以内（ご返済計画に無理がないよう年収による制限があります）。
お借入利率	上記記載の金利は、お借入当初のみに適用されるものです。お借入後の利率は、基準日（4月1日、10月1日）の各JAの基準金利（短期プライムレート）により、年2回の見直しを行います。
担　保	原則として不要です。

ご返済方法	元利均等返済（毎月返済とボーナス返済の併用可）。
事務取扱手数料	最大1,000円（消費税別途）。
保　証	福島県農業信用基金協会の保証をご利用いただきます。ご融資額によって連帯保証人が必要となる場合があります。
保証料別途	年0.55%（一括前払い）
ご用意いただく書類	①合格通知書または、在学証明書 ②所得に関する書類 お勤めの方・農業者の方／ 源泉徴収票、所得証明書または住民税決定通知書 自営業者の方／ 納税証明書および確定申告書（写） ③ご本人であることを確認する書類／ 運転免許証等、健康保険被保険者証、住民票（家族全員記載のもの）

※ご利用に関しては、組合員加入のための出資が必要となります。
※店頭にてご返済額の試算を承っております。
※なお、審査の結果によっては、ご要望にそえない場合があります。
※ローンのご利用は、JA所定の資格・要件を満たす方に限らせていただきます。
※ローンの詳しい内容については、店頭に説明書を用意しております。

詳しくは、お近くのJA窓口へどうぞ。

お気軽にお問合せ下さい!

お問い合せ先 JAふくしま未来
福島地区ローンセンター ☎024-555-0840　安達地区ローンセンター ☎0243-24-1127
伊達地区ローンセンター ☎024-575-3301　そうま地区ローンセンター ☎0244-46-2234

訪問看護と訪問介護 似て非なり!!

ＪＡ福島厚生連
訪問看護ステーション万葉
所長
羽根田 民子 氏

皆さんは「訪問看護ステーション○○」や「訪問介護事業所○○」などと書かれた車を見かけたことはありますか?これらの車は、看護や介護が必要な方のご自宅に直接訪問して、訪問看護や訪問介護といったサービスを提供するための車です。この訪問看護と訪問介護は一文字違いで非常に紛らわしいと思われます。そこで、今回はこの訪問看護と訪問介護の違いについて説明させていただきます。

○どんなケアが受けられるの?

訪問看護は（准）看護師免許を取得した（准）看護師がケアを行います。その範囲は、病状の観察と判断から、終末期のケアなどの広範囲に及びます。訪問介護は基本的には免許は必要ありませんが厚生労働省が認定した養成講座を受講したものがケアを行います。ケアの範囲は療養生活上のお世話となります。しかし、専門的な研修を受けた者は医師の指示による医学的処置の中で、たんの吸引や経管栄養（胃ろう、経鼻カテ）の処置も行うことができます。（表1参照）

○どんな人が対象なの?

訪問看護のサービスを利用しようとした場合介護保険でのサービス利用が優先されます。しかし、介護保険では、判定によって月間支給限度額が決まっており、介護保険だけでは必要なサービスが受けられない場合があります。そういった場合は、医師が必要と判断した場合に限り医療保険にてサービスを受けることができます。また、利用者やご家族のご都合にて提供限度を超えてサービスを受けたい場合はその分は自費にてサービスを受けることもできます。

訪問介護の対象者は、訪問看護の利用対象者から医療保険の対象者を除いた方が対象となります。（表2参照）

○どうすればサービスを受けられるの?

訪問看護は、サービスを受ける場合、訪問看護指示書が必要となります。介護保険でサービスを受ける場合は、市町村の介護の窓口に相談し介護認定してもらいます。訪問認定調査などを経て要支援、要介護のランク付けがされます。その後、地域包括支援センターなどでケアマネを決めてもらい介護の計画（ケアプラン）を作成していきます。そこで医療行為が必要になった場合は、ケアマネからかかりつけ医に訪問看護指示書の作成を依頼し、その訪問看護指示書に従ってケアが開始されます。介護認定が受けられなかった場合などは医療保険を使ってサービスを受けることになりますが、直接かかりつけ医に相談して医師が必要とした場合にはかかりつけ医から直接訪問看護指示書が作成されそのケアを受けることができます。訪問介護のサービスを受ける場合は、介護認定を受けた後、ケアマネが作成するケアプランに訪問介護の利用を入れていただいてサービスを受けることとなります。

○料金はどのように決まるの?

医療保険を使った場合、訪問看護での料金は受けたケアの内容によって訪問看護に支払われる料金が決まり、自己負担はその中の1～3割となります。一方、介護保険を使った場合、使用できる介護保険の上限は、介護認定のランクによって変わってきます。自費の場合はこの範囲を超えてサービスを受けようとする場合は、負担割合が10割になります。

療養生活のお世話（訪問看護/訪問介護）		
・食事のお手伝い	・身だしなみを整えるお手伝い（髭剃り、整髪、お着替えなど）	
・口腔内の清潔ケア	・排泄のお手伝い（トイレ移動介助、オムツ交換）	
・洗面・洗髪	・車いすやベッドへの乗り移りのお手伝い	
・シャワー・入浴・手浴・足浴などのお手伝い	・体位変換（体の向きを変える）	
病気の治療のための看護（訪問看護）※一部訪問介護でも可場合あり		
・お薬の服薬方法の指導、服薬確認	・点滴	・導尿
・血糖測定	・注射（静脈、筋肉、皮下）	・人工呼吸器管理
・浣腸	・採血	・IVH管理（中心静脈栄養）
・摘便	・床ずれ処置（体圧分散・除圧・減圧、皮膚面の保湿・清潔ケアなど）	
・たんの吸引（口鼻腔、気管切開）※	・人工肛門・バウチ交換	
・薬剤やスチームの吸入	・経管栄養（胃ろう・経鼻カテ）※	・腸ろう・腎ろう・膀胱ろう管理
・ガーゼ交換	・気管カニューレ管理	・在宅酸素療法
・カテーテル管理	・永久気管孔管理	
療養環境の確認と助言（訪問看護）		
・介護保険サービスなどの手配状況の確認と助言	・ガーゼやオムツなど医療用品の手配	
・居室やベッド周りなどの安全確保、採光、換気、空調などの確認と助言		
・杖、車イス、介護ベッドなどの福祉用品の手配状況の確認と助言		
健康状態の観察と療養生活の助言（訪問看護）		
・血圧・体温・呼吸・脈拍のチェック	・利用者の状態の観察	・食事・運動・休養などへの助言
精神・心理的な看護（訪問看護）		
・リラックスのため手足や頭などをマッサージ	・ゆっくりと時間をとって会話のお相手	
・気分転換のためのお散歩や旅行などへの付き添い	・テレビや音楽鑑賞、読書のお手伝い	
・筋・神経疾患の方との文字盤を使った会話	・治療やリハビリテーションへの意欲喚起	
・不眠時や精神的に不安定な際の声かけや見守り		
在宅でのリハビリテーション（訪問看護）		
・リハビリテーションに臨むための体調管理	・寝たきり予防のためのケア	
・転倒・転落、オーバーベースなどの危険防止	・日常生活動作の訓練	
介護するご家族の相談や技術指導（訪問看護）		
・ご家族のお悩み相談	・看護・介護の知識や技術の指導	
・医師の診察結果をわかりやすく説明	・認知症の正しい知識と接し方の指導	
様々な介護サービスの使い方や連携方法の相談（訪問看護）		
・介護保険、医療保険の説明	・医療機関や自治体などの相談窓口の紹介	
終末期ケア・お看取り		
・痛みの緩和（鎮痛剤の投与やマッサージなど）	・お看取り（ご臨終前後のケア）	
・精神的なケア		

表1:「訪問看護」と「訪問介護」受けられるケアー覧

	65歳以上	40歳以上65歳未満	40歳未満	特例	適応サービス
介護保険	要支援・要介護と認定された方（1号被保険者）	16特定疾患の対象者で、要支援・要介護と認定された方（2号被保険者）	×		訪問看護 訪問介護
医療保険	医師が訪問看護の必要性を認めた方で介護保険の要支援・要介護に該当しない方		医師が必要と認めた人	①介護保険における厚生労働大臣が定める疾病等の方 ②病状の悪化により医師の特別指示（特別訪問看護指示書）が出されている方	訪問看護
自費	自費の訪問看護は、要介護度や症状の程度、病気の種類、年齢を問わず、全ての方に ご利用いただけます。 例）がん終末期、難病、自宅でリハビリテーション中の方、40歳未満で交通事故の後遺症で寝たきり など				訪問看護 訪問介護

表2: 訪問看護対象者

福島地区 山木屋支店 営業再開のお知らせ

平成23年度より伊達郡川俣町山木屋地区内での
営業を休止しておりましたが、平成29年3月31日の
避難指示区域解除にともない営業を再開いたします。

●営業再開日　平成29年4月3日(月)
●所　在　地　伊達郡川俣町山木屋字広野原7-1
●電　　話　024-563-2020

編集後記

今年度のシメの編集後記を書かせて頂くことになりました。一年は早いです。

先日、メガネを新調しようとふら～っとお店に立ち寄りました。いろいろ試して思ったことは「どれをかけても景色は変わらない」ということ。自分に必要なのは、新しいメガネじゃなく、これからも色眼鏡で物事を見ないことなのかな、と。なんて、クサいことを言いましたが、新しいメガネは買うつもりです。

（厨）

理事会報告　第13回 理事会

日時：平成28年12月26日(月)　午後1時30分
場所：JA福島ビル10階　1001会議室

提出議案

議案第1号　平成29年産米からの複数年契約の取組みについて
議案第2号　ＪＡふくしま未来「作物別営農技術員」設置要領の制定について
議案第3号　理事会承認貸付金について
議案第4号　貸付業務規程の改正について
議案第5号　信用事業事務取扱手数料徴収基準の改正について
議案第6号　避難指示解除に係る山木屋支店の営業再開について
議案第7号　平成29年度ＪＡふくしま未来組織機構について
議案第8号　伊達給油所の営業廃止について
議案第9号　木幡給油所廃止に伴う対応について
議案第10号　「就業規則」および「育児・介護休業等に関する規程」の変更について

旬のものいちご

～いちごの力～

ビタミンCが豊富に含まれているため、風邪予防や美肌に効果が期待できます。また、最近注目されているポリフェノールの一種の「アントシアニン」も含み、抗がん作用もあると言われています。水洗いをして果皮が弱ることで、水っぽくなり、栄養分が流れてしまう可能性があります。そのため、食べる直前に洗うのがおすすめです。

旬のもの簡単レシピ

イチゴのフルーツグラタン

[材料(4人分)]

- イチゴ ……250g
- キウイフルーツ…1個
- 生クリーム …100cc
- マシュマロ……50g
- 卵白 ……1個分
- バニラエッセンス…適量
- 飾り用マシュマロ …6個

[調理方法]

❶生クリームとマシュマロを耐熱容器に入れ、電子レンジで加熱しマシュマロを溶かします。

❷❶にバニラエッセンスを２、３滴加え、卵白を軽く溶いて混ぜ合わせます。

❸イチゴはヘタを取り、タテに４等分にします。キウイフルーツは１㎝厚さの半月切りにします。

❹耐熱容器にイチゴとキウイフルーツを並べます。

❺❹に❷を注ぎ入れ、マシュマロを飾ります。

❻オーブン（トースターも可）で表面に焼き色がつくまで焼きます。

JAふくしま未来 広報誌 2月号 2017年2月1日発行

JAふくしま未来 ふくしま未来農業協同組合 編集：企画部広報課
〒960-0185 福島県福島市北矢野目字原田東 1-1 TEL:024-573-7121 URL:http://ja-f-mirai.or.jp/

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C002379
この印刷物は、環境に配慮したFSC®(Forest Stewardship Council®)森林認証取得用紙を使用しています。